淀川水系流域委員会
第2回意見聴取反映WG検討会
議事録（確定版）

○この議事録は発言者全員に確認の手続きを行った上で確定版としていますが、以下の方につきましてはご本人未確認の文章となっております（詳しくは最終頁をご覧ください）。

寺川委員

日 時 平成18年 8月29日（火）
午後 1時30分 開会
午後 4時38分 閉会
場 所 ぱるるプラザ京都 5階 会議室B

[午後 1時30分 開会]

○庶務（日本能率協会総研 近藤）

それでは、定刻となりましたので、これより第2回意見聴取反映ワーキンググループ検討会を開催させていただきます。

本日は、議事次第に沿いまして「新たな意見聴取の方法及び社会的合意についての意見交換」、
「今後の進め方」、「その他」という議題で会議を開催していただきたいと思います。

その前に配布資料リストの確認をさせていただきたいと思います。袋の中の資料を取り出していただきまして、資料1-1「意見聴取反映WG意見書目次(案)」、田中委員提供の資料でございます。それから、資料1-2、澤井委員提供の同じく目次(案)でございます。それから、資料1-3「新たな意見聴取及び社会的合意に関する委員の意見」ということで金盛委員からの「社会的合意について」という資料でございます。それから、その他資料として「この後の委員会のスケジュール」でございます。それから、後でお配りした資料で川上委員の方から「新たな意見聴取の方策の検討～対話集会の見直し・再設計(検討)」という資料をお配りしているかと思いますが、もしお手元にない方は庶務までお申し付けいただければというふうに思います。

これから議事の方に入らせていただきますけれども、その前に1点お願いがございます。実は、7月20日に開催されました第73回運営会議で、きょうの検討会は非公開で行っておるわけなんですけれども、公開会議にしてほしいという傍聴の方の意見がかなりあるということを受けまして、この検討会についても議事録を作成し、それを公開するということが決定されました。したがって、きょうから速記の方も入っていただき議事録をとるようになりますので、委員会及び部会同様、ご発言の前にお名前を発してから意見等を述べるようにしていただければというふうに思います。なお、作業検討会については議事録は入らないということでございます。

本日の会議予定ですが、16時半までと予定しております。よろしくお願いいたします。

それでは、澤井WGサブリーダー、会議の方をお願いいたします。

○澤井WGサブリーダー

澤井です。きょう、本来ですと田中リーダーが議事進行をされるはずなんですけど、ちょっと急用ができて1時間余りおくれてこられるということをお伺いしておりますので、本日に限ってサブリーダーの私が代行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

[新たな意見聴取及び社会的合意についての意見交換]

○澤井WGサブリーダー

それでは早速1番の議事なんですけど、「新たな意見聴取及び社会的合意についての意見交換」。

このテーマはもう既に前回の作業検討会でも同じようなテーマで議論をしておりますけれども、それを引き続き行うということで進めたいと思います。

それから、2番の「今後の進め方」というところでいずれは議論をさせていただこうと思うんですが、これは非常に時期的に差し迫ったスケジュールになっていまして、9月のうちにはどういう報告をするかという見通しを立てて、年内には報告書をつくるというようなスケジュールで進めたいと思っていますので、きょう意見書の目次（案）というようなものを決めていくことができればと思っています。田中リーダーと、それから私の案とが今配られておりますが、それについてどの時点で議論をいただくか。

それから、前回金盛委員からお出しいただいていた資料について、金盛委員がここにおられなかったということもあって十分それを検討する時間がなかったということがありますので、きょうできるだけ早い時点でそれを皆さんで検討していただきたいと思います。それから、臨時に配られました川上委員のご意見についてもこの議論の中に最初から含めて意見交換をしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは、順序としまして、この前ちょっと保留になった分ですね。金盛委員の資料について先に議論を進めたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

そうしましたら、前回お出しいただいたものに少し加筆して下さったんですね。それを金盛委員の方からご説明いただいて、そしてまた皆さんのご意見をお伺いするという形で進めたいと思います。

では、金盛さん、お願いいたします。

○金盛委員

金盛です。今回は途中から欠席しましてどんな議論がなされたかは知りませんが、川上委員からご発言があって、「サイレントマジョリティーと多数の無関心の扱い」などについては不明確ではないかというふうなことがございまして、このたびそういったことを中心に少し書き加えました。何分箇条的に書いてありまして意を尽くせぬところがあるわけでございますけれども、私の考え方は大体こんなところであるということをご理解いただけるのではないかなと思っています。大体読んでいただいたらわかると思いますが、私が特に申し上げたかったことだけをまずかいつまんで申し上げます。

それでは、1)の「課題の認識」ということについては、これは委員の皆さんもそのままご理解いただけるのではないかなと思っています。要するに、「社会的合意の成立要件や手順は確立していない」のではないかなというのが基本的な認識であります。それは、卑近な例を申し上げてあれで

すが、栗東新駅、これなどまさに不変でないということの好例であると思っております。したがって、確立していませんから、それぞれの場において試行錯誤が当然である、いろんなケースがあるということでもあります。

それから、2)の「形成過程で求められるもの」。これは、一番最初に書いてある「合意形成に至るまでの手順が関係者に示されること」、これが非常に大事であると思っております。通常これが行われていないわけでありまして、したがって、住民の説明会だとか対話集会などが設けられましても、それがどういう位置づけにあって、後どういう過程で進んでいくのかということがわかってない。したがって、そこからは、言葉は悪いですが、混乱だとか後どうなるかとかいうことについての不信などが出てまいります。

それから、それと関連するのですけれども、予想される課題だとか、そういうものが事業者側であらかじめ提起され、またいろんな場でも提起されまして、課題等への調査検討が十分なされること、そしてその調査検討の結果あるいは資料が公表されまして十分説明、対話がされるということ。

この「手順が示される」とあわせて重要なのが関係住民の、それから関係機関・団体等の意見の聴取、集約。まあ、合意の形成と言えるかもしれませんが、こういう関係住民と関係者・機関との話し合い、意見集約、こういったこと。

それともう1つ、この流域委員会のような審査会だとか専門委員会の意見ですね。「是非軽重の評価」、これが当然ここで出てまいるわけです。

こういった住民とか関係団体あるいは専門委員会等の意見や評価を踏まえて事業の総括がなされ、意思決定がされると、こういう過程を踏む。この過程が、最初に戻りまして、最初に「こんなふうに進めていく」ということが、もちろん修正はあると思いますけれども、最初に示されるということが重要であると思っております。

そのいわゆる「社会的合意ということの成立」を考えてみますと、これは詰まるところ要するに、地方議会といいたまうか、関係自治体、例えばダムならダムで、それに関係する市とか県の自治体の議決もしくは承認ということであると思っております。言わずもがなであります、我が国は国民主権の原則に立つ議会制民主主義の国でありまして、しかもこの議会制民主主義というのは人類が考えた、たどり着いた、何といいたまうか、一番英知が集結された、集約というのか、社会的合意の方法であるというふうに思っております。

ここでもし意見がいろいろあって「議決の結果だけでは」ということになれば、特別に住民の意向が反映される方法はあるわけがございます。それが住民投票であります、これといえども条例を制定するという議案の可決が議会が必要となるわけでありまして。

それから、4)「その他」として3つほど挙げましたが、「『サイレントマジョリティ』と多数の『無関心』の扱い」。これについては、前回は1行だけにしておったのですが、特にというご意見がありましたので加えました。

まず基本的な認識はこの2つであります、全く異なるものであるというふうに考えております。それで、淀川の整備計画では無関心が大多数でありますけれども、これは特別異常なことでもありませんし、また懸念とする材料でもないというふうに認識をしております。

次に基本的な姿勢でございますけれども、したがって、この二者、サイレントマジョリティーと無関心については当然対応や扱いは異なると思っております、サイレントマジョリティーについてはやはり意見の集約にできるだけ努める、把握に努めることが重要であると思っております。無関心については、これは余りにする必要はないのではないかと。無関心ということは、何でしょうか、言葉は悪いですが、枯れた井戸から水は汲めない、砂漠に水を求めても仕方がないということとあります。ただ、時にどの程度そういう人がおるかという実態の大要は確認する必要があるということとどまるのではないかと思っております。

それで、扱いでございますが、これは全部が全部社会的合意を求め、確認するというふうな事業に相当するかどうかということには疑問があり、事業はやはり限られると思っております。それは社会的な影響や反響が大きいとか、あるいは利害関係者がたくさんあって意見が分かれているというふうな事業、いろいろあると思っておりますが、いずれにしても特定の事業に限られると思っております。

サイレントマジョリティーについては先ほど申しましたように意見の把握の機会を設けるということとありますが、機会の設営には下のa)、b)、c)のようなことが肝要であると考えます。

a)「事業の性格に相応しい規模の参加者を確保する」と。当然反響が大きければ参加者はあるわけでございますけれども、少数の間で論じても仕方がないと思っております。そして、「参加者には十分に事業の情報が事前に提供される」こと。いろんな機会があると思っております。前回申し上げましたワールドトレードセンターなんかは、調べてみますと、もういろんな考え得る限りの情報提供の場が提供されている。図書館などでの閲覧の場があったりもしています。

それから、当然のことであると思っておりますが、b)「参加者には束縛されない意見表明の環境が整えられる」こと。

それから、c)「迅速な意見集約と総括のシステムが準備される」ということとございまして、1日行って終わるような姿がいいのではないかと。1会場とは限りませんが、できるだけ大きな場で全員がそろうという方がいいでしょうけれども、複数会場を同時進行のような形でもいいかと思っておりますが、できるだけ早く終結するような、言ってみれば1日で終結するようなシステムを

準備すること。これは相当前から準備せんといかんとと思いますが、先ほどのワールドトレードセンターでは3カ月ぐらい前から準備しています。そしてこのシステムでは次の3点についてとくに配慮されることが重要であると思っています。i)「参加者は、発表者全体の意見を確認し共有できる」と。ですから、1会場でありますから大きなスクリーン等が出ます。どんな意見が出ているかが出るわけですが、そんなふうなシステムがあればこういうふうなことができるわけです。ii)「個人の意見は自由に修正、追加、撤回できる」、それからiii)「集約、総括される過程が観察でき、かつそれに参加できる」というようなシステムであります。こんなふうなものが肝要であるのではないかなと思っています。

それから、無関心の場合は先ほども申しましたように特段配慮は必要ないと思っております、これは、別の言い方ですと、関係自治体の議会にゆだねられたと考えていいのではないかなと思っています。どうしてもその大要をつかむということが必要なときには無作為抽出のアンケート等を実施されればいいというふうに考えます。

それから、先ほども申しましたが、サイレントマジョリティーとか社会的合意形成の中のいわゆる住民の合意形成ですね。あるいは関係者の合意形成には事前の説明と情報公開はもう基礎的な要件であって、これが十分行われな限りにおいては大勢に間違ったところが出てくるのではないかなということでもあります。

それから、これは私の経験から申すのですけれども、事業者への信頼感、事業者の事業に対する熱意の継承が合意を得るのに大変重要であると思っています。

以上です。

○澤井WGサブリーダー

はい、ありがとうございます。

今の金盛委員の「社会的合意について」のご意見について討議をお願いしたいと思いますが、川上委員、前回の金盛委員からの話を受けて、少し情報が少なくて発言がしにくいということだったんですが、きょうのご説明を聞いて何かご意見がありますでしょうか。

○川上委員

はい。前回は今おっしゃったように感じましたけれども、今のご説明をいただきましておおむね理解できました。

○本多委員

1つだけ聞いていいですか。

○澤井WGサブリーダー

はい、本多委員、どうぞ。

○本多委員

本多です。ちょっと質問させていただいていいですか。

サイレントマジョリティーと無関心の方々というのはどんなふうに見分けるというか、違いがあるかというのをちょっと教えていただけますでしょうか。

○金盛委員

どんなふうに見分けるかではなしに、実質サイレントマジョリティーというのは意見を持っておられる人なんですね。意見がある人なんですよ。だから、意見のある人と意見のない人をどないして見分けるかというのは私もよく知りませんが、要するに意見を持っておる人をいかに吸収するか、くみ上げていくかということが重要なんだと思うんですね。だから、最初はわからないと思いますね。それをどうして探るかというのはいろんな方法があると思いますよ。例えば淀川の整備計画で言うなら、ダムの話もあるでしょうし、あるいはこれから問題になるであろう狭窄部の開削の問題ですね。あるいは、淀川の河川敷の公園のあり方などの問題は恐らく意見がいろいろ出てくると思いますね。そういったことを議題にするというふうなところを仕掛ければいい。そして、意見を発表する会場が準備されれば、この間おやりになった対話集みたいなのをもう少し超えた場があって、十分に準備したようなことになれば、意見がある人は出てこられるのではないかと思います。だから、見ただけではそれはちょっとわかりません。この人は意見を持っているとか、この人はサイレントマジョリティーか無関心かというようなことは見ただけではわかりません。何か仕掛けが必要だと思います。

○澤井WGサブリーダー

本多委員、それでよろしいですか。

○本多委員

よくわかりました。

○澤井WGサブリーダー

何か今のことに関連してご質問、ご意見ありませんでしょうか。はい、今本委員、どうぞ。

○今本委員長

今本です。これは非常に上手にまとめておられます。これをどう考えたらいいのかという意味でお聞きしたいんです。議会制民主主義ということです。我々が今考えられる最善の方法であることは間違いないんですけれども、議員の多数と住民の多数の意見とが常に一致しているとは限らない、

ここに問題があると思うんです。

といいますのは、投票するときの一つ一つの案件で議員を選んでいるわけではないわけです。例えばこの前の衆議院の解散で、郵政解散と言われた。でも、郵政民営化の賛成反対だけで投票しているわけではないわけですね。そこにいろんな問題が出てくるわけです。その例が金盛さんも挙げられた栗東新駅だと思うんです。圧倒的多数で県議会で可決されたにもかかわらず、住民の大半が、あれは7割ぐらいでしたかね、ノーと言っている。そういう乖離というものが起こり得るわけですね。だからといってこの制度が悪いというわけではないんですけれども、そういうところをどういうふう考えたらいいか。これは解決のめどのない質問で申しわけないんですけれども、よろしくをお願いします。

○金盛委員

金盛です。そこなんです。事業者の判断だと思います、それは。通常、地方議会では予算審議の場で事業（計画）も総括に審議される。大体そうなんです。予算案が可決されれば合意されたということになりますが、一件一件については必ずしもそうではないかも判りませんから、そこは事業者の判断だと私は思いますね。先ほど挙げましたね。例えば、開削部をどうするかというような話ね。これなどについてはたとえ淀川関係の予算を審議したからといって、審議したことになるのか。これらはやはり社会に一件一件聞いてみようかというふうなところになろうと思います。したがってそのように仕掛けたらいいと思うんです。仕掛ける必要があると思います。ですから、先ほど申しましたように、非常に限られたことになるとは思いますけど、非常に社会的に大きな問題だとか、将来のために場合によっては意見を聞いておく必要があるということは今後事業者がそれなりに判断されてしかるべきだと思います。先ほどのような意見を聞くような対話集会などの大きな場を仕掛けると。

○今本委員長

それでもいわゆる合意というわけにはいかない場合もありますね。例えばダムの問題を考えたら、初めから反対と言う人と初めから賛成と言う人が幾ら議論をしても妥協の余地がない。そうすると、何か不毛な議論になる。これはこの委員会でも、例えば河川管理者の人は「これだけ説明したのに」というふうに言われるわけです。確かに一生懸命説明してくれた、我々も本当に頭が下がるほどよくわかった。だけど、委員会としての意見は河川管理者の考えとは違ったものになっているわけです。そうすると、委員会としての合意はできるんですけど、河川管理者は納得しないですよ。では、河川管理者ということは別に置いて、そういう社会全体の中で考えた場合に議論することによって合意できるのか。そういう意味で、私は合意形成というのは無理な場合があり得るなと思っ

て余り好きな言葉ではないんですけどね。結局はできないのではないかと思うんです。

○金盛委員

ええ。ですから、場合によっては合意にならない場合、あるいは合意が、合意を求めるといかなような重大な問題であるほど、本当は合意が難しいものなんですね。ですから、平行線で終わる場合はあると思うんですよ。だけど、それを仕掛けて、上流下流の意見がどうだったかとか関係者の意見はどうだったかとかいうふうな大きな場が設けられてそれだけの会議が開かれれば、今度はそれを見ているわけです。ほかの、例えば議会なんかでも注目しているわけですね。だから、合意にならなくてもそれはそれでいいですよ。いろんな意見があるというままでいいと思うんですね。

それを議会は見ているんです。地方議会だって、京都付近の議会でも大阪府議会でも見ているんです。亀岡の市議会だって見ておるわけです。見ておるわけですね。その上で議会として行動することがあったら行動したらいいですよ。行動したらいいんです。それを議会で、例えば特別委員会でも開いてもう一遍やろう、議会で意思を出そうということになったときにそれが議会制民主主義の最終の社会的合意、最終と言ったら悪いかもしれんけども、社会的合意のあかしであるというふうに私は考えますけどね。だから、個々の住民合意の形成の場あるいは対話集会の場で合意できなくてもいいと思うんです。議論する。こういう議論があった、こういう議論があったということを社会全体に広報できるというか、PRというか、認識できればいいのではないかと思います。

○今本委員長

まず徹底的に議論することが大事だということですね。それはもう非常に私も同意します。

○澤井WGサブリーダー

ほかに。はい、千代延委員、どうぞ。

○千代延委員

千代延です。今、金盛さんの方から非常に核心をついた部分がいろいろ出たと思いますけれども、私は、社会的合意になるのは、お二人の話にありましたように、結論は難しい問題ほど出ないと。重大な問題ほどなかなか出ないと思うんです。しかし、ダムにしろ、河川管理者が実際に住民の意見の聴取ということでいろんな手段・方法で今までやっておられます。随分の回数をやっておられます。その記録を二、三日の間、ちょっと皆さんよりも1周も2周もおくれていると思って、少し見させていただいたのですが、やはり社会的合意というのは一応目指すべきものではあるが、結局そこに至るプロセスを重視して、これはさっきの金盛さんの意見とダブることになりますけど、結局、人事を尽くしてといいますか、いろんな場を提供してその意見がそれぞれ出たという、まあそこでそれを把握して反映できるかできないかというのは、これはここで言えば河川管理者の判断に

任すしかないと思うんです。

それで、議会制民主主義というかなり大上段に構えた議論が最初あったと思うんですけれども、今河川整備計画に関していいますと、議会とか何とかではなくて、この整備計画をいかにつくるか、いかに住民の意見を反映したものにしようかというものであって、議会という前の段階だと私は思うのです。それぞれの問題も河川整備全体がどうかというのではなくて、いろんな部分部分の問題があります。議会でするからどうだというのではなくて、その計画を策定する前の段階で住民の意見をいかに聴取するかという、そこが焦点であると思います。予算というのは議会で最終的に決まるわけですが、ここでの議論はそこよりもはるか前の段階のものとして私は理解しております。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見はありませんでしょうか。はい、寺川委員、どうぞ。

○寺川委員

寺川です。金盛委員さんのご説明で納得できる部分もあるんですが、ちょっと納得できないといえますか、疑問もあるわけです。

この前もちょっと述べたんですけれども、滋賀県の栗東新駅の問題が一つの具体例として挙げられているわけですが、まず「1)栗東新駅の着工には社会的合意があった。」というところから始まっているわけですが、これは果たしてあったのかと。先ほどの説明で、議会、いわゆる日本の民主主義制度がつくり上げられてきた過程の中での議会制民主主義、これについてはかなり進歩的だということは私も認識はしているわけですが、今、滋賀県議会とか、あるいは滋賀県で言われているのは、県民に対して十分な説明ができてなかったということを推進されている方も言っているわけです。ということは、十分な説明ができないままに判断をなされてきた、しかしそれはもう議会の議決を得ているのだから社会的な合意なんだということが果たして言えるんだろうかとちょっと疑問に思うわけですね。

4番のところでも、これは県民のかかわりですが、「その関係は間接的であり、通常は関係自治体の議会（県および市）の同意で社会的合意が成ったと判断される。」と。ここでも、金盛さんが言われる議会の承認というのが社会的合意と、こういうふうに結ばれて、そして最後に今回の知事選挙でこれまで社会的合意であったはずの栗東新駅の推進というものが「凍結（廃止）の社会的合意を新たに形成する過程にある。」と。このあたりがですね。まあさっきのところでも、いわゆる合意の成立のところ、関係自治体の議会の議決もしくは承認で社会的合意が成立するのだと。時には住民投票もあるということで、ここで住民投票というものを場合によってはやっぱりや

る必要性を述べておられるわけなんですけれども。これを考えますと、滋賀県の知事選挙で最大の争点になった栗東新駅が社会的合意を得ていたはずなのに、かなりの差で県民はやめてくれという判断をしたということになるわけです。そうしますと、社会的合意を新たに形成する過程というよりも、一つの社会的合意が出たということにはならないんだろかというふうなことを考えたりするんですが、その辺はいかがでしょうか。

○川上委員

栗東新駅の問題が事例として挙がっているので私もこれを事例としてお話ししたいと思いますけれども、知事選挙というのは直接選挙ですよ。直接民主主義です、端的に言うと。議会制民主主義というのは間接民主主義ですよ。本来ならば直接民主主義で全員投票でやるのが一番いいんですけれども、これはシステム上なかなか大変だということもあって議会制民主主義という間接民主主義をとっているといえますか、合理的な判断でそうなっているというふうに考えられると思うんですけれども、この栗東新駅の問題というか、滋賀県知事選挙のこの事例を考えてみますと、まさに直接民主主義と間接民主主義の、何といえますか、それぞれの性格がここでぶつかって、ある意味矛盾が露呈しているということが言えると思うんです。

その議会制民主主義、間接民主主義の欠陥を補うために住民投票制度というのが設けられておりますし、それからリコール制度、これも間接民主主義の欠陥を補うためのシステムであるわけですね。いずれにしても、完全なシステムというのは人間のつくるシステムですからないわけでありませう。そういうふうに欠陥を部分的に修復するというシステムがあって初めてちゃんと機能するというふうに私は思うんですけれども。

それで、金盛さんのきょうのご意見の中で私が矛盾を感じているのは、議会の議決というのが社会的合意なんだという論法は非常に乱暴ではないかと私は申し上げたいと思います。それが2つのところに出ております。3)の「『合意』の成立」の「関係自治体の議会の議決もしくは承認」というところと、それから栗東新駅のところの「議会（県および市）の合意で社会的合意が成ったと判断される。」と。これは非常に乱暴な言い方かなというふうに私は感じます。

○澤井WGサブリーダー

はい、本多委員、どうぞ。

○本多委員

前回、寺田委員が、意見の聴取と反映の方法という問題と社会的合意の問題は分けて考えた方がいいのではないかと。特に河川管理者から依頼されているのは前者の方、聴取と反映という問題ではないかというようなことでどこに力点を置いて議論をするかという話もあったように記憶をして

います。

それで、今の話に関して言うならば、例えば選挙というものを通じて嘉田さんを選んだということについては反対派も無関心層も合意はできていますけれども、では新駅の廃止について合意ができたかと言えばそうではない。

そのことを河川整備計画にもし置きかえたとして考えてみたとしたら、社会的合意にもいろんな段階があるだろうと。例えば、整備計画というものが出てきたということについては社会的合意が得られるかどうか。例えば、中に書かれているダムについては反対だ、賛成だという合意は得られなかったかもしれないけれども、でもこれだけ丁寧に時間をかけて住民の意見を聞きながら、説明もしながらつくってきたこの整備計画についてはとりあえずはその過程は納得できるよねというような社会的合意もあるかもしれない。でも、中身については賛否、合意がとれないかもしれない。

選挙も一緒だと思うんですね。その人が当選したということでは反対派も全部合意するけれども、その人の公約に全部合意があったかというところではない。すると、社会的合意といってもいろんな段階での合意形成というのがあるのではないかなというふうに思いますので、どこまで意見が合うというところまで必要なのか。それと、整備計画というものに対して賛否はあっても、「ああ、なるほど。これは丁寧につくられた」という信頼関係とか信頼感とか、国民からのそういう過程に対する、何て言うんですかね、支持といいますか、信頼といいますか、そういうものが合意されていると。たとえ反対の内容が書かれていても、この方法でつくってくれたらいいなというように思ってもらえるというような段階の社会的合意というものもあるのではないかなというふうに私は思いますので、やっぱり合意形成のどんな段階を目指していくのかということも大切かなというふうに思います。

○澤井WGサブリーダー

はい、千代延委員。

○千代延委員

ちょっと水を差すようで申しわけないのですが、今、本多さんは最初にこの前は意見聴取の方に重点を置いてという流れをおっしゃいましたが、私もそういうふうに理解しておったんです。恐らくこの社会的合意のことはもう何時間でも議論しようと思えばできると思うんですが、一つ私がお願いしたいのは、時間の配分も考えて、特に9月中には何とか出せとかいうことなんで、そういうことばかりやったら議論が始まらないということではないですけども、やっぱり重点を意見聴取ということで、そちらの方にどこかの早い時間に振っていただきたいと。

といいますのは、私も本当に皆さんよりおくれておりますのでこの委員会で今まで社会的合意と

か意見聴取ということについて最初からどのようなことをやられていたのかというのは遅まきながら見させていただいたんですけれども、これはわかり切ったことですが、中間とりまとめは別にしまして、「提言」で平成15年11月に「住民参加のあり方」、それから同じくその中に「淀川河川整備計画策定・推進にあたって河川管理者が行うべき住民との関係構築」というようなところから始まりまして、この間も配られましたけれども、平成15年5月には「提言」の別冊でやはり「河川整備計画における一般意見の聴取反映方法について」というのがありまして、また平成15年12月に基礎原案に対する意見をまとめられたときに本論においても「計画策定、実施のあり方」の中でも触れられておりますし、さらに進んで「河川整備計画推進の具体的な整備内容」の中に具体的にかなり突っ込んで住民の意見の聴取について述べられておるわけです。

さらに、ここに青いのが配ってありますけれども、これは平成15年12月の「計画策定における住民意見の反映についての意見」ということでまとめられております。それで、同じこの中に住民参加部会の意見としてもまとめられているところがありまして、その続きに「住民参加部会参考意見」ということですが、今いろいろ皆さんはまことにもっともなことを述べられていますけれども、非常に丁寧にここへ、全部がダブっておるわけじゃありませんけれども、委員会で既にやられておるわけですね。ですから、もうこんなことはむだだからやめてくださいということを申し込んでいるわけでは決してありませんけれども、やっぱり意見聴取の方を求められておりますので、どうかどこかで切り替えをお願いしたいと思います。

○澤井WGサブリーダー

はい、今本委員。

○今本委員長

今の意見は社会的合意を議論しているときに言うべき意見ではないと思うんですよ。話題を変えませんかという提案でとどめるべきですね。これはリーダーにもうちよっときちんとさばいてもらわんといかん。社会的合意はもう終わりますか。

○澤井WGサブリーダー

今の千代延委員のご意見はこの後で取り上げたいと思いますので。

○今本委員長

これでやられたら一人一人が全部話題を変えていいということになりますので、ぜひその辺はリーダーが。よろしくをお願いします。

○澤井WGサブリーダー

このワーキンググループの主たるテーマは意見聴取の方であると、それはよくわかっています。

しかし、社会的合意のことをこの前からの流れで取り上げて今議論していますのでもう少し時間をいただきたいと思います。

ほかにこの金盛委員の資料、ご意見に関連してご発言ありますか。三田村委員、どうぞ。

○三田村委員

とはおっしゃるものの、私、開催されてから今まで何をやっていらっしゃったのかよくわからないのです。といいますのは、金盛委員が出されたのをリーダーがリーダー案として議論しようと思案されたんですか。それとも、たまたま金盛委員が出されたものを「これは何でしょうか」というぐあい求められてみんなで議論に入ったんですか。

それで、田中リーダーと以前こういう打ち合わせをしたことがあるんです。委員全員から社会的合意あるいは意見聴取反映方法についての意見をいただいて、それについて議論すべきではないかと。そうしますと、このような混乱もないでしょうね。いろんな案があって、その中からいいものを出せばいいわけですから。きょうのこの取り回しはどういうことなのかなど思っていたんです。

まずそこまでにしまして、それから私もちょっと言わせてください。言っちゃいかんといいながら言わせてください。

社会的合意を議論する理由は、私たち委員会がダムに関して社会的合意という言葉を使ってしまったんですね。それに対して河川管理者がちゃんとした判断ができないまま社会的合意を求めようとされた。そこに私たちにとっても随分大きな責任があるのでこの際整理しておきましょうねというのが社会的合意なんです。もう1つの方の意見聴取反映の方法ですね。それは私たちに課せられている役割なんです。そういう意味では随分違うんです。そのことは前回のワーキンググループ検討会でも寺田先生並びにほかの先生方もおっしゃったんです。目的と内容が随分違いますので分けてお考えになるべきだと思います。

そこで、こんなことを言っておいて金盛委員のご意見に反論しちやいかなのでしょうけれども、ついでにしゃべらせてください。

議会制民主主義というのは住民の意見を反映させることが非常に困難であると。従来でしたら、例えば私たちが選んだ国会議員だとかが動かす、今回のこういう整備内容シートにありますこともみんなそうだと思うんですね、形式的には。要するに、行政に関与しているのは国会議員でしょうから、それが合意を得て動かしたものに関してはみんな社会的合意があるというふうにとれるわけです。金盛委員の意見からしますとね。私は、そこに非常に大きな問題があるので法によって住民意見をもう一度ちゃんと聴取しなさい、そしてそれを反映する仕組みを考えてできるだけ反映させなさいということだろうと思うんです。ですから、議会制民主主義というのは社会的合意を得るた

めのプロセスとしては非常にまずい部分があるんだよというところが原点だろうと思うんです。

それともう1つは新駅の問題で、当然合意はあったんでしょうけど、私たちが求める社会的合意とはちょっと違うように思います。嘉田知事が当選されたのも、あれはある意味での社会的合意によって当選されたと確信できないんですね。票数も圧倒的数で当選したわけでもないですからね。私たちはそういうもとの物事を判断しなければならないという現状にいると思うんです。議会においても多分そうだと思います。そういう意味においては、本当の住民の意見を反映させるようなやり方というのは何なのかと。そして、それに基づいてもう少し社会的合意とは何なのかということを考える必要があると思います。

○金盛委員

金盛です。幾つかお答えせんといけませんし、意見も述べないといけないと思います。

まず1つ、私は社会的合意について意見を出したのは、出してくださいと言われたから出したということです。私一人しか出てないということは心外です。もっともっとたくさん出てきて、私は、実は前回ここへ寄せてもらうことを楽しみにしていたんです。どんな意見を皆さん方がこの問題についてお持ちなのか、それを楽しみに来たんです。しかし、私だけの意見でありまして驚いておるんです。

それから、川上さんのおっしゃった意見は、議会制民主主義の否定だと思っております。私は、議会制民主主義は人類がかち取ったがすぐれた社会的合意の方法であると思っております。これにすぐるものがあるのだったらお示しをしてほしいと思います。

それから、三田村先生がおっしゃった、私も議会制民主主義は最初からこの方法で合意を形成するものではないと。したがって、意見でも述べましたけど、②が重要なんですよね。②でいろいろ意見が分かれたときに、それを、あるいはここで合意されれば非常に問題ないです。それで、議会でも問題になるはずないですよ。ところが、関係住民の意見が集約できなかったり、関係機関や団体の意見がいろいろ割れたときに、最後に何でそれでは社会的合意を得るかというたら、今の手段はこの議会の議決ではないか、関係自治体の議会の議決ではないかと思っています。ですから、2番の方が大事だということをここで重々言うてるつもりなんですが。

○三田村委員

片括弧2です。

○金盛委員

片括弧2です。

2) でしっかりと示しなさいよと、合意するまでの経緯を。タクティクスで、どんなふうな手順

でいくかということをしかりと事業者は示す必要があると。そこでいろんなことが予想されるわけですね。それをしかり検討して調査しなさいと、こう言っているんです。その上でそれを把握して、それで公表して説明して対話もしながら、そういう意見集約の過程をずっと踏んでいって、そこで申しましたね、情報や資料の展示なんかもやってですよ、ビデオなんかも回してやる。そんなことをやりながら、それで住民の合意や関係機関の合意などを得る努力をするんです。

それから、審査会や検討会、調査委員会等いろいろあると思いますけれども、そういうところで、その事業（計画）の評価をいただく。そして事業者として総括されると、これが私は合意形成だと思います。これが社会的合意形成ですけれども、住民意見の集約ということであれば同じような手続があると思いますが、後で書きましたサイレントマジョリティーなんかの手続は一つの参考になると思います。あくまでも社会的合意の一つの要素だと思っています、住民の意見集約というのは。ですから、初めから何でも議会があったから議会で決定する、そこで意思表示する合意形成をはかるということではありません。そういう意味でこれは書いたつもりであります。

それから、前回確認された社会的合意がノットイコール住民の合意でないということはそのとおりであります、それはまた同感でありまして、その種のことは2)で書いてあると思います。

○澤井WGサブリーダー

はい、ありがとうございます。

この議論で余り深く入っていきますとそれだけで終わってしまいそうなので、もうあとわずかでこの議論を一たん打ち切りたいと思うんですが、どうしてもというご発言は。

○三田村委員

今の金盛委員のことにに関して私の発言がまずかったんだろうと反省しております。私は9割方、金盛委員の新しい文書に賛成しております。初めメールでいただいて、それから前回のワーキングでいただいて、きょうと随分と進化しております、私の判断ですけれども。随分賛同するところがありますけれども、ただ、議会制民主主義というのは、かなり小さいものだろうと思いました。そこを取り上げると、せっかく私たちが意見聴取をやっているのに何か変なことになりはしないかという発言でありました。

○川上委員

金盛委員から、私の考え方が議会制民主主義の否定だというふうに指摘をされましたので、これは議事録に残りますから、あえて反論しておきます。

私は議会制民主主義を否定しているつもりはありません。ただし、人間のつくったものですから完璧ではないので、それを修正するために住民投票だとかリコールの制度があるんだという事実を

お話ししたまでです。議会制民主主義を否定しているつもりはありません。

私が申し上げたかったのは、その議会の議決というのは社会的合意とは言えないのではないかと。それを言い切れるものではないのではないかと申し上げたかったわけです。この「2）形成過程で求められるもの」というのは、私は全面的に賛成で、まさにこういうプロセスを踏むことが合意形成に至る道であろうというふうに思っておりますけれども、1）と3）の考え方と、今私が全面的に賛成だと申し上げた2）の部分との間に、少し論理的矛盾があると思いますので、その点を指摘したかったわけです。

それで、この1）のところに、合意形成の「成立要件や手順が確立していない」、「また今後も確立するとは考えられない」という言葉がございますけれども、これはやはり淀川水系流域委員会で社会的合意が必要だというふうに述べた以上、今までにない考え方、あるいは提案でもありますので、ここでみんなで精いっぱい議論をして、ある一定の方向性といいますか考え方を示そうではないかという、ある意味での努力といいますか、実験といいますか、それを今やっているところではないかと私は思うんです。それをやった結果、やっぱりわからなかったと。これはギブアップするかもしれませんが、まあぎりぎりできるところまで徹底議論をしようではないかというふうに皆さん考えていただいているからこの会議が成り立っているのではないかと思います。

以上です。

○澤井WGサブリーダー

それでは、ほぼ1時間を経過していますので。

○寺田委員

ちょっと少しだけ。ごく短く。

○澤井WGサブリーダー

はい、寺田委員、どうぞ。

○寺田委員

整理の上で申し上げておきたいと思います。

住民参加と社会的合意というものは明確に区別されなければならない、これをやはり皆さん認識してほしいと思うんです。それは前回少し申し上げました。端的に言えば、住民参加というのは、これはご承知のとおり行政過程において関係者、いろいろな関係者が意見を述べることのできる手続なんです。これは法律でも規定されていますけれども、されていなくても、住民参加の手続というのはよく行われております。その根拠は先ほどいろいろおっしゃいましたけれども、国民主権とか、それから住民自治、これは憲法が規定するものであり、議会制民主主義を前提とした立法、

行政、司法の三権分立の制度とともに、憲法上の根拠がありますけども、それはそれとして、住民参加というのは、基本的には地域住民に限らず、自治体の長であっても、それから学識経験者であっても、いろいろな人がこの行政過程において意見を述べることができる手続ということができません。この主旨は、さまざまな権限者に対して有益な意見を反映させようというための手続なんです。こういうことによってよりよい計画づくりをしようとするものです。よりよい行政を行おうということが目標なんです。目的なんです。

ところが、他方、社会的合意というのは、十分な住民参加を行えば結果として出てくる成果なんです。これは、だから目的ではありません。住民参加の手続の目的は社会的合意ではないんです。社会的合意は今も申し上げているように、あくまでも住民参加を徹底的にやれば大方の住民、議会関係者の納得が得られると、そういうものが一つの成果としていけば社会的合意と言えるというだけの話なんです。

ただし例外があります。これは、先ほど金盛さんもお書きになっているように、例えば住民投票によってある一つの事業にイエスかノーかということについて、住民の一つの意見を出してしまうこと。これはまさに社会的合意というものを初めから目的として行う手続なんです。これは例外です。だから、こういうもの以外は、要は社会的合意というのは結果として生まれるものにすぎない。だから、初めから何かの要件があって、金盛さんが書いておられるように、何か手続とか手順とか要件があって行う手続ではないわけです。社会的合意というのは、それは、いろいろやった結果として大方の合意があるというふうな成果が生まれるということにすぎない。社会的合意というものとこの住民参加は実は区別されずによく使われております。残念ながら、去年日弁連が行ったシンポジウムにおいてさえも、実はあのとき配ったレジュメの中に、これを全く区別せずに混乱して使っています。これは恥ずかしい話です。法律家がこんなことではいけないんですけれども。ここは明確に皆さんも意識をしておかないといけないと思います。

さっき、三田村先生が社会的合意を今回この委員会の意見の中で触れておかななくてはならないということの理由として、これは委員会が提言の中で、ダム建設に関して社会的合意ということをあたかも一つの要件かのような形でちょっと述べていますから、一体ここで言う社会的合意というは何なのかということをやはり明確にしておく必要がありますから、これはまさに大きな理由ですよ。けども、それとは別に、もう1つは、広くこの社会の中でも住民参加と社会的合意が混乱して使われている。これはきちっと、我々委員会もこうして理解していますよということ間違いのないものとして明確にしておくという必要があると思いますから、これは、やはり大きな柱の一つとして今回の意見の中ではぜひ項目立てをして意見をまとめるべきだと思います。

きょうつくっていただいたレジュメには、リーダー、サブリーダー、そういう形でつくってもらっていますから、これでやるのはいいのではないかというふうに思っております。

○澤井WGサブリーダー

はい、ありがとうございました。 児玉さん。

○河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

今の社会的合意の件に関して述べさせていただきたいと思います。

この社会的合意について、河川管理者の方でどう考えているかということについて何度かお話をしたことがあると思うんですが、ちょっとまとめて申し上げたいと思います。

社会的合意について、これはきょうも議論されているように明確な定義というのは我々自身も持っていません。一応、大まかに言うと、大方の人が、しょうがないとか、まあそれでいいかと、そういう状況になっていることが社会的合意だろうと思いますけれども、何をもってそうなのかということとはとても我々自身もわからないし、世の中のどなたに聞いてもはっきりしないというような状況です。ただ、そういった状況が望ましいということは、私たちがそう思っているということです。目指すべき結果としてそのような状態になっているということは必要なことだろうと思っています。

それで、もっと大事なものは、そういった状態に結果としてなる過程、プロセスとして我々が一体何をすべきなのか、どういった方法をとるべきなのか、住民意見の聴取という方法もそうですし、もっと幅広くとらえるならば、河川整備計画の策定のはるか上流の段階から策定に至るまで、あるいは策定した後のフォローアップも含めて、どのようなプロセスをとるかということの方がはるかに大事なことだろうというふうに我々は思っております。そのプロセス、ここの方法に具体的な提案があれば、これはぜひ教えてほしいというのが河川管理者のスタンスです。特に、整備計画の策定過程の住民意見の聴取の部分に限って、限ってといいますか、特にここは明確にお聞きをしているわけでありまして。私が今申し上げたのは、それ以前も以降も実はあるんだということで、そういったところにも触れていただくのはむしろ歓迎でありますけれども、大事なところです。今委員会に明確に求めているのは、手続の何をすればいいか、具体的な方法であるということです。

ダムの提言の中で、住民、社会的合意というのが言葉として出ておりましたけれども、あのとき確かにこの言葉の意味がわからんと申し上げたんですけれども、今私が申し上げているように、この言葉の定義がわからないからといいますか、定められてないから住民意見の聴取をしないということでは全くないわけです。スタンスとしてはそれはやっていく、当然にやっていくということでありまして、ここの住民意見の社会的合意の定義というので河川管理者はきちつきちつとこれを

求めているわけではないということをご理解いただければと思います。

いずれにしろ、我々はプロセスを教えてもらって、そしてそれをやっていきたいということになります。

○澤井WGサブリーダー

はい、ありがとうございます。もう間もなく休憩に入りたいと思うんですが、この席にいるとなかなか発言しにくいところがあるのですが、1つだけ言わせてほしいのですが、サイレントマジョリティーの意見の聴取のところ、それが先ほど、無関心とは全く別のことなんだと。無関心のところは、もうほっておかざるを得ないというようなお話があったんですけども、私、サイレントというのは、必ずしもマジョリティーでなくても、マイノリティーであったとしても、その意見を引き出す努力というのは非常に大切だと思っております。

先ほどご提案があったのは、1つは、なるべく短い時間で集約して、例えば大きな会場、あるいは複数でもいいけれども、そういうところに集まってもらって意見を集めるというのが非常に重要だとお話になったのですが、前回の検討会の際に、三田村委員からお話のあった、発言できない状況にある人の意見、そういうものは、出席できる場をつくってみてもやはり発言されないのではないかという気が私はしているんです。それから、有力な手法がアンケートではないかなと思っております。アンケートの位置づけが、先ほどは無関心層を啓発するようなことに向けられていたような気がするんです。私はそうではなくて、やはり発言をしにくい、あるいはできない人、意見を持っているけれどもそれが言えない人、それをどうやって掘り起こすかということが非常に重要なことではないかというふうに思っています。

ちょっと勝手な意見を言いましたけれども。しばらく10分間休憩をして、そして今度は意見聴取の方法についての議論に移っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

○庶務（日本能率協会総研 近藤）

それでは、50分まで休憩ということでよろしく願いいたします。50分に会議を再開したいと思います。

[午後 2時39分 休憩]

[午後 2時50分 再開]

○澤井WGサブリーダー

それでは、皆さんおそろいですので、再開したいと思います。

リーダーの田中委員、ご到着ですけれども、もうやりかけた続きで、私、きょうはずっと進行をやらせていただこうと思います。

それでは、後半は、新たな意見聴取の方法についての議論に入っていきたいと思いますが、せっかく川上委員から資料をご提供いただいていますので、それについて、まずちょっと補足をしていただいて、そして議事を進めていきたいと思います。

○川上委員

きょうは、前回のワーキングにおきまして、みんなで意見を出してくださいということだったので、実は私、非常にこのところ公私ともに忙しくて、けさ出発する前にばたばたと書いたもので、まだこれは未完成なんです。前回、意見として会議で言わせていただいたことも含んでおりますので、あえて説明することはございません。

○澤井WGサブリーダー

ああ、そうですか。

○川上委員

お読みいただいたら結構です。できるだけ早く、これがもっとちゃんとした形になるように私なりに努力いたしますので、きょうのところはそれでご勘弁を。

○澤井WGサブリーダー

はい、承知しました。

それでは、川上さんの資料にはこだわらずに、ご自由にご発言をいただきたいと思います。そして、幾つか発言いただいた上で、今度は取りまとめの方向ということで報告書といたしますか、意見書の目次の案についての議論に入っていきたいと思いますが、まずはその目次以前の問題として、こういう点について注意すべきではないかというようなご意見、ご発言があればお願いしたいと思います。

はい、千代延さん、どうぞ。

○千代延委員

千代延です。まとめ方というか、そういうことの前にちょっとお尋ねしたいんですが。

河川管理者の方は、各河川事務所とも第1稿が出て、その後基礎案、ダムの関係と、物すごい回数対話集会とか、それから説明会、意見交換会を実施されておるわけですね。これはテストでやったわけではありませんけれども、これほど実際場でやられて、我々委員一人一人のいろんな経験よりも何よりも物すごい経験のものがあると。その蓄積の中に、意見聴取あるいは反映ということについて、生きた教材が一番たくさんあると思うんです。

この前、河川管理者にお願いしましたですね。各河川事務所に、今までおやりになったことで、まず意見を集めるのにどういうことをしたか。ちょっと内容が私には正確にわかりませんでしたけ

れども、その事務所ごとになさったことについて、次の機会ぐらいにそれぞれ、こういうやり方を
してどうであったかという、そういうことを報告していただけるということになったんですかね。

であればいいんです。と言いますのは、そこに一番大きな教材があると私は思いますので、次の
機会に教えていただきたいと思います。

○田中WGリーダー

その件に関しましては9月13日、次回までに可能な限りということで申し上げたんですが、管理
者側から資料提供していただくと。それも大体5日ぐらいまでにはお願いできるのではないかと
いうことで、大体、話になっていると思うので。

○千代延委員

はい、わかりました。

○河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

あの、5日ということになっていると、そのお約束は多分してないんですけど。

次回のですね、11日の週にと言ってたのが13日に、きょう見たら決まっておるようですけども、
それに向けて。

今までお出ししている資料は、どちらかという、こういうことをやったということに若干の評
価が入っているぐらいなんですけど、もう今回取りまとめるのは、こういうところはよかったけど、
どういうところは改善の余地があるというか限界があるかとかですね、そういった評価を中心にし
たものを取りまとめたいと思っておるんですけど、少し時間をいただいて、次回のこのワーキング
のときにはお持ちしたいというふうに思っております。

○澤井WGサブリーダー

はい、ありがとうございます。

三田村委員、どうぞ。

○三田村委員

多分、児玉さんは覚えてらっしゃると思うんですけども、従来の視点ではなくて、評価に重点
を置いて報告したいとおっしゃったんですが。前回あるいは前々回にお願いしていますのは、対立
点のテーマについて、私ども対話討論会だとか円卓会議だとか、そういうのが有効ではないかとい
うので、それについては幾つかご報告していただいて、その部分の評価が少し抜けてますよとい
うので、もう一度お願いしたいということなんですけど。

対立点でないテーマについてやってらっしゃる部分があると思いますから、どのような方法で住
民側に意見を聴取し反映させようとしたかとかです。幾つかのやり方があると思いますが、それに

についてもお願いしたいと。

多分、覚えてらっしゃると思いますので、よろしくお願いします。

○河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

児玉です。確かに承っておりますが、ちょっともう一度確認をいたしますと、我々のやった報告というのは幾つか、大きく分けて3つほどあってですね。

直接、住民の方々にお話をする、従来やっていたのに近い説明会、プラス若干の意見交換会という形でやっておったと、このタイプのものが1つ。それから、窓口を開いておって、よりさまざまなツールで意見をいただく、インターネットであるとかまあそういったもの、これが2つ目。それから、対話討論会といった今回新たに行ったもの。この3つが大きくありますけれども、そのそれぞれの方法の中でもいろいろ工夫を凝らしております、若干事務所によっても違ってまいります。で、先ほど申し上げました、それぞれの評価に重点を置いたレビューをしたいというふうに考えております。

ちょっとこれは確認ですけど、私、前回のときに、この意見聴取の過程のやったこと以外に、その事業を実施しておときの住民参加の状況についても幾つかのパターンを教えてくださいというふうにおっしゃったと思っていたんですけども、そうですね。

○三田村委員

わかりやすくまとめていただくというのなら、その方法がいいのではないかということです。対話集会のようなものはこういうテーマがあった、それで例えばダム関係についてはこういう評価ができるとかです。不満だった点、あるいはよかった点があるでしょうし。あるいは例えばワンドの再生に関してだとかというのが、こういうやり方でやりましたとか、だけど本当はワンドの再生はほかのやり方の方がよかったのではないとかですね、そういうのがあると思いますので。今、3つぐらいとおっしゃいましたが、それはどういう具体的な内容のものを扱われたか、そういうまとめ方をしていただけるとありがたい。

といいますのは、先ほど児玉さんがおっしゃったように、具体的ないわゆる反映すべき有効な聴取方法を教えてほしいとおっしゃったですね。これはこの流域委員会の大きな役割の1つだというぐあいに認識してらっしゃると思うんですけども、それをつくるためのワーキンググループだろうと思うんです。非常に急がなきゃならない。そのためにはその資料をいただきたい。管理者が本当に困ってらっしゃる部分を明確にさせていただくと作業がしやすいという意味で、私はこの前もお願いしたんですけど、そのようにまとめていただくと早く、考えるところに入ることができると思いますので、よろしくお願いします。

○澤井WGサブリーダー

児玉さん、よろしいでしょうか。

○河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

前回もいただいている話で現在やっておりますので、あのときも申しあげましたけれども、まず第1稿や第2稿やら基礎原案を出したときの意見をどう聞いたのかという部分、これについてご報告をしたいと思います。

それから、さらにもう1つは、この整備計画の策定のための意見聴取に限らず、例えば個別のワンドの整備をするときにどういう住民参加を経て行っているのかという、これは整備計画策定のものではないのですけれども、参考になるだろうということで、そういった事例も幾つかご紹介をするという、大きくはその2つという理解でやっております。

後者の方はちょっと、まず前者の方をなるべく早く、次回のときにはお出ししたいと思います。後者も間に合えば、次回のときにはお出ししたいと思っております。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見は。

はい、荻野委員、どうぞ。

○荻野委員

荻野です。ちょっと今までの意見と重複するところがあるかと思うんですが、意見を述べさせていたいただきたいと思います。

住民意見の反映プロセスは技術論的な問題ではないかなと思います。どのような形でどのようにして意見を聞けばよいかということです。住民サイドの側からいうと、意見を述べたい人々にどのような機会を与えるか、それから事業者側から見た、そういう意見をどういうふうに聴取する、聞き出していくのかということの接点になるのは、今のこの流域委員会の役割ではないかなと思います。

ですから、技術的な問題を技術的にきちっとできるように、大所高所の議論をするのではなくて、技術的なプロセス、技術的な内容についてとりまとめることが大事なことではないかなと思います。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見ありますでしょうか。

そしたら、ちょっと先を急ぐようですけども、意見書をまとめるに当たって、どういう構成にしていくかというようなところの議論に入っていきたいと思いますが、田中委員からこの意見書の目次案というのをつくっていただいていますけれども、ちょっと田中さん、補足をお願いします

でしょうか。

○田中WGリーダー

おくれて来て申しわけありませんでした。

目次案なんです、複数、2つか3つぐらいの案があった方がいいのではないかと思います、澤井先生にもお願いしたんですが、具体的な項目に入る前に、やはり基本的な概念とといいますか、今までずっと委員会が意見あるいは提言なりずっと続けてきている中で、1つ、最初に基本的なものをやはり記述しておいた方がいいのかなと、これもちょっと迷ったんですが、そういう概念、あるいは意義と機能というものについても一度記述した方がいいかなと思っております。

それから2番目、ずっと繰り返し広げてこられました提言や意見を受けて委員会側から提案しましたこの対話集会、まあ公聴会という位置づけかと私は認識しているのですが、これからもたらしてきたもの、全体的な評価、それから、この間もいろいろ資料を出していただきましたが、個々の取り扱ってこられたものに対する評価。

それから、そういういろんな努力を重ねられた結果、一つの合意形成みたいなものがあるのかなのか、その辺のところも、これから資料で出していただくということなのですが、それについても議論、記述していくべきだと思っております。

それから4番目には、提案者つまり我々委員会が、先ほども出ていましたけれども、どんな提案、適当な提案を含めて、あるいはひょっとしてこれは難しい提案ではなかったか、あるいは実現できないような提言ではなかったか、あるいはしようと思っても時間的な束縛やいろんなことでなかなか実現できなかった、そういう難しいこともあるのではないかということも含めて、委員会からのみずからの総括も必要ではないかということが、今までの形の中で出されてきたことを記述すべきだと。

それから将来に向かっての、ではどういう方法と提案をしていけばいいかということで、一番やはり肝心の「住民と連携・協働」というものがあり、具体化し、実践していく、そういうものを具体的にしていかなければならないと。河川レンジャーとか流域センターとか、いろいろ具体的な構想が構築されつつあるわけですが、そういう前向きな新しい分野について提案していくべきだろうと。

それで、2番目には手順として「伝える」「聴く」「対話する」、この手法も、まだまだほかのやり方で、新しい一つの模索みたいなものをやはり考えていく必要があるのではないかと。

それから、参加制度の法的整備とといいますか、これは私の一委員としての勝手なあれなんです、やはり何か法的な制約を、住民参加を形づくる上で必要ではないだろうかということで、一つの例

として河川条例のようなものが、お互いの、管理者側と住民との間に一つのつなぎとしてできないであろうかと、そういう提案でございます。

それから4番目、「開かれた対話・情報」というのは、これは当然のことなんですが、つまり常日ごろから、常に管理者側と住民というのは、別に形づくった会話の場ではなくて、対話の場ではなくて、いろんな人が出入りできる、あるいは日常的な会話ができるような、そういう情報の交換だとか、もうここは管理者だから、ここは住民だからという、そういう分け隔てのない、常日ごろから間口を広くするといいますか、住民が参加しやすいような、そういう管理者側の姿勢をお願いしたいなということでございます。

それから5番目に、サイレントマジョリティーの考え方については、これは皆さん、さまざまな意見があると思いますが、これは私個人より皆さんとまた議論すべき課題だと思っております。

それから、午前中に一応議論されたと聞いておりますが、社会的合意の考え方ということをもとめていきたいと。それで最後にまとめという、一応、目次案を私なりにつくらせていただきました。

以上でございます。

○澤井WGサブリーダー

ありがとうございます。

○田中WGリーダー

澤井先生のも言ってください。

○澤井WGサブリーダー

私のですか。それでは、私のつくりました目次案をちょっとごらんいただきたいと思います。

私のは余りそういう思いを書いたようなことにはなっていません。形式的に並べたようなことですね。

まずは、この委員会が提案、実施してきた「これまでの住民意見聴取・反映の方法」です。「一般からの意見の受付」ということを、これは事前に送ってもらってこの委員会資料につけるといようなことをずっとやってきているということ、それからその委員会の場での傍聴者の発言というのを委員会の最後に必ず置いているということ、その他、集会をまだまだその他に持つといようなこともやってきています。

それから、関係者がやってこられたことが、先ほどからたびたび話題に出ていますけれども、説明会とか意見交換会、それから住民対話討論会、あるいはその他、その事業を実施していく段階でいろいろワークショップ等をやっておられるようなことがあると思います。そういったもののこれまでのまとめとして、成果と課題について、まず第1章で書けたらと思っています。

それから、それを踏まえて、今度は「新たな意見聴取の方法と提案」、ここについては私は内容は全然書いておりませんが、これからの議論でそれを形づくっていきたいと思います。

それから、最後は社会的合意形成。これは、その社会的合意という言葉の定義を、やはりこの委員会としてはどういうふうに使っているということ、もう一回明確にしておく必要があるかと思っています。その合意を形成していく方法についてまとめるというような構成で考えてみました。

以上です。

その2つの案をちょっと頭に入れていただいて、これからどういう意見書を作成していくかについてご議論いただきたいと思っています。

はい、今本委員、どうぞ。

○今本委員長

まず質問です。これはワーキングの意見書を出そうとされているんですか。

○澤井WGサブリーダー

そうです。

○今本委員長

私は委員会としてそれは想定していないと思います。委員会としてやろうとしているのは、河川管理者から諮問されたことに対して答えることです。その原稿をつくるのがこのワーキングの仕事だと、私は思っているんです。例えば水需要管理部会では、明らかに水需要管理というものについての委員会としての考え方を示そうということで一つ出そうとしています。

ですから、私、これはタイトルもないし、このワーキングが意見書を出そうとされているのはちょっと意外だったんですよ。その辺の取り扱いをちょっと考えていただけませんか。

○澤井WGサブリーダー

これは田中委員どうですか、このワーキンググループとしてのまとめということになるのか。

○田中WGリーダー

私はそのように伺っております、これを住民参加部会で議論をしていただいて、そして意見としてまとめて委員会に諮るという手順を伺っていたんですが。

○今本委員長

いや、手順はそれでいいんです。ただこれ、三田村さんどうでしたかね、今、委員会として河川管理者から諮問を受けていますよね。で、これまでにいろいろと、その諮問に対する意見書という形ですけど、それに答えてきた。今度は新たなバージョンで前のをグレードアップしたものでやっいていこうとするのか、全くこういう、別個に意見書として出そうとするのか。

私は前者の方だと思ったんですよ。つまり、委員会として答えるべきものを、特に一般意見の聴取・反映についての議論をするためのものであって、意見書はワーキングの意見書ではないというふうに理解して、この辺ちょっと整理しておかないと、時間的余裕もありませんので。

○三田村委員

三田村です。整理しなければならないんだろーと思います。ワーキンググループに課せられた仕事と、それから委員会に課せられた仕事と違うと思いますね。最終的に委員会がどのような意見書になさるのか、それはちょっと不透明ではありますけれども、ほかの部分も意見書として出されるのであれば、それは意見書2とか、あるいは3稿とか、そういう形で出せるのだろーと思うんです。

それにしても、それは本来は委員会がつくるべきです。その原稿は多分、住民参加部会がつくるのかもしれませんが、ワーキングでそれをやっていただくと非常にありがたいと思います。手直しで済みますから。多分、重なる委員が多いと思いますので、ワーキングで意見書2に相当するの何か知らないですけど、そういうものをおつくりになるというのは私はむだではないと思います。ただ、使命は新たな住民意見聴取方法の提案みたいなものだ。それはもう具体的な方法だろーと思います。そのための資料を今、河川管理者の方から集めていってもらいたいと考えます。

そういう意味においてちょっと気になりますのは、社会的合意の考え方という項をここに持つてくるのがいいかどうか、ちょっとわからないです。あるいはもっと一般的に、合意形成についてとか何とかにされまして、その中で、この前半を受けて新たな意見聴取の方法の提案だとか何とかありますね。それについてはもう、合意形成はこんなふうなところにある点がありますよとか、ここには悪い点がありますとか書かれて、その中で宿題の社会的合意という意味に触れられてもいいのかなと思います。あるいはもう全然別個のところ、別に項をおこされて、社会的合意についての委員会の判断といいますか、全然別個に別冊といいますか、それはあってもいいのかなと思いますけれども。こういう形で社会的合意というふうに上げられますと、これが重くのしかかってきますので。ちょっと気になりました。

それと、もう1点は、今、目次案についての項目でよろしいんですね。

○澤井WGサブリーダー

はい。

○三田村委員

今まで委員会がやってきた、いわゆる試行がありますね。住民意見の反映方法を具体化さすまでの試行があったんですけど、その総括はもう終わっていますから、私はそれはもういいと思います。新たにその後、もう一般傍聴者からも意見をいただいているのですけれども、それも試行段階

は終わってしまして普通の発言だろうと思いますから、それはもういいのだろうと。あるいはその後半の部分、私たちが提言した後に新たな問題点が生じたのであれば、それはコメントされる必要があると思うのですけれども、私はそんなふうにも感じていませんので。その部分はいいいんだろうと。

特に、澤井副リーダーがお書きになった、今までの委員会が提案云々というのは、ここはもう経緯だけ軽くやられてもいいと思いますね。委員会がこんなふうに行なってきて、それで提言にそれを反映させているんだということがそこに書いてある。それで、その後の対話集会等を重点的に提案して、それを河川管理者に伝えて云々というところにも結びつけられるかなというふうに思います。

それで、田中委員がお書きになった部分も、そのところは随分と軽くされていいと思います。実際、ページ数が多いとか少ないとかの問題ではないんです。内容が一番わかりやすいのは、具体的にどのようなテーマにはどういう意見聴取方法がいいのか、あるいは気をつけるべきところはどこなのかということを示した方が、河川管理者の方は有効に使ってくださると思うんです。あんまり難しいことを提案すると、多分だめになると思いますから。

できるだけ具体的に、こんな方法でやるといいよというところに集約されたらいいでしょう。それを、委員長がおっしゃっているように、ワーキンググループの意見として、あるいはその考え方として出すのか、あるいは委員会の考え方で出すのかは、あとはどちらの形でもいいと思います。出されてから委員会でご判断されたらいいと。委員会の案みたいなものは越権行為だというように考える人もいるかもしれませんが、それはありがたいことですから、私はいいと思いますけれども。

ごめんなさい、長くなりました。

○澤井WGサブリーダー

ほかに意見、はい。

○今本委員長

越権行為だとか、そんなことは全然考えてないです。

○三田村委員

いえいえ、ごめんなさい。

○今本委員長

これはありがたいですけども、どういう話になるのか、何に重点を置くのか。

このワーキングで議論したことをまとめようとされるのか、あるいは一つのテーマに向かって何かを書いていこうとするのか、姿勢の問題なんですけれども。私がお伺いしたいのは。

○三田村委員

多分、議論したことをまとめようとなさっているのではないですよ。諮問内容について、もう極めてわかりやすく記述されただけだろうというふうに思うのですが。そのためのいろんな意見が出てくる段階かなというふうに思っているんです。そういう意味では、これを見てどう思いますかという資料を出されて、それでいろんな意見を集約されて、わかりやすい答えを記述されればそれでいいのではないかと。

そういう意味において、きょう金盛委員がお出しになったのをたたき台にされるというのは、また出てきたらまたやらなきゃならないですよ。宿題として、一気に出されて、それをリーダーがまとめられて、で、対案はこうで、かなり違う部分はこうですけどもいかがでしょうかと意見を聞かれて、それでぼんとまとめられるのはいいと思います。ワーキングというのはそういう仕事だと、私はそう思いますけれどもね。

○澤井WGサブリーダー

ほかに意見のある方。

はい、本多さん、どうぞ。

○本多委員

ちょっと座長と副座長にお伺いしたいんですけれども、このお2人の文書を見ていますと、意見聴取の方法と提案というのはどちらにも書かれているんですけれども、聴取の方法だけで反映という言葉が入らなかったのは何かあったんですか。

○澤井WGサブリーダー

このワーキングの名称は、意見聴取反映ワーキングですね。

○田中WGリーダー

ミスで抜けています。

○本多委員

抜けているだけですか。

○田中WGリーダー

意見聴取と反映方法が基本でプロセスと考えています。

○澤井WGサブリーダー

ちょっと私の方から先に答えさせてもらいますと、私はその抜けているというのは気がついていました。それで私もそれに踏襲といいますかね。

あるいは反映というのは、委員会の仕事はなくて、管理者の仕事だというふうに私は考えたんで

すね。それで、その聴取の方法について提言するのが、この委員会の仕事だなというふうに私は考えていたんです。反映法について考えるのは管理者のお仕事だなというふうに思ったんですが。

私の解釈が間違っていますでしょうか。

○三田村委員

切れないでしょうけどね、それは。

○寺田委員

言葉遣いの問題で混乱してはいけないと思います。

河川法が求めているのは、住民意見を反映させるために必要な措置なんです。意見聴取なんていうのは書いていません。これはもう当然の話なんです。

だから、河川管理者の方から委員会に諮問されているのも、この河川法が規定する住民意見を反映させるために必要な具体的な手続、措置、手法、そういうことについての諮問なわけですね。だから、それについてどういうふうな具体化のための手法なり手続というものがあるのか、前に提言した住民対話集会の方式というものをより発展させる、もしくは修正する、それから追加する、そういうようなことを今回目指そうということなのです。

反映するためには、まず意見を聞かないと反映できませんから、これはもう論理的に当然に意見を聴取し、そして反映するという意味で、このワーキングも、それから今までの言動も全部、「意見聴取・反映」というふうに言っています。だから両方含んでいるのです。

ただ、ちょっと今、副リーダーがおっしゃった、そういう使い分けは何もしてないというふうに思います。そう理解された方がいいと思います。

○澤井WGサブリーダー

そういうことであれば、私の方の目次案、Ⅱのところ、「新たな意見聴取・反映」というふうにつけ加えたいと思います。

ほかにご意見ありますでしょうか。

それから、このワーキングの進め方ということで、既に先ほど三田村委員あるいは金盛委員からもちょうとご指摘があったんですが、8月22日を締め切りとして、一たん、この我々ワーキングのメンバーにそれぞれが持っている意見を出してくださいという募集をかけているんですね。ところが、それに対して反応があったのが金盛委員お一人であったということ。それで先週、24日にこの作業検討会を開いたときに、その金盛さんだけのもので議論をしようかということを経たところ、いやもう少しみんなの意見がそろおうのを待とうということになったわけですね。それから5日置いてきょうになっているんですが、残念ながら事前には出てこなかった、そして先ほどの川上さんの

資料が1つ届いたと、そういう状況なんです。全部が届くのを待つと言っていると、これはいつまで待たらいいのか非常に怪しいので、もう作業に取りかかるということにしたいと思っているのですけれども。

これも一つのサイレントマジョリティーなのか、なかなか指名をされないと発声はしないというのが、やっぱりどの場所にもありまして、これは発言できないわけではないと思うんですが、人ごとのようにとらえているというところがあってですね。

ですから、もしこういう形で骨組みがこう決まってくれば、その原案を作成するような役割分担を決めたらどうかというふうに思っているのですけれども。いわゆるたたき台があつての議論はしやすいけれども、自由にご発言くださいというと、なかなかだれも言わないというような傾向がありますので。

そんなふうに進めていってもよろしいでしょうか。

千代延さん、どうぞ。

○千代延委員

宿題をさぼった者として言う資格はないのですけれども、一度書こうとしたんですが、さっき私もちょっと申しましたし児玉調査官も申されましたように、きちんとした3つのスタイル、すなわち従来に近い形の説明会、意見交換会、それからファシリテーターを使った対話集会という大きなしかけのものをやられているわけですね。諮問機関であるこの委員会でいろいろ提言したことを受けて実践をされておるわけですね。これまで時々部分的に評価はされていますけれども、全体としての総括はいただいています。その一番大事なところを抜きにしてはなかなか書けないんですよ。これをいただいて今のようにグループを分けてやってもそれはいいですけど、この一番大事な材料を示していただいて、それをある程度頼りにして何かを生み出していきたい、あるいはまとめていきたい。そうしないと、ちょっとなかなか手が出ないと私は思ったんです。

それから、もう1点は、先ほど申しましたこととダブりますけれども、委員会としては、かなりレベルの高いことを何回かにわたってまとめたものを出しておるんですね。ですから例えば、今までとダブってもいいから、そういうものの中で再度ここで拾い上げておいた方がいいというものは、何もオリジナリティーではないけれども、エッセンスを拾い出し、新たなことも加えて今回このWGでまとめようというような方向を決めていただきたいんです。

○澤井WGサブリーダー

はい、本多委員どうぞ。

○本多委員

本多です。前回、児玉さんにお聞きしたときに、結構住民意見というのは言いたい人はいろんなところでおっしゃると。もう押しかけて来てでもおっしゃるといって、意見を聴取するというのは比較的、一般的に意見を聞くのであれば聴取しやすいのかなと。私たち自身も委員会として傍聴者意見を聴取しているとすごい分厚くなるぐらいの資料が、それこそ制限を加えようかというぐらいの意見が集まるわけなんですね。一生懸命募集をかけて、書いて書いてと言っているわけではないんですけど、相当の資料や意見が集まってくるというのがあります。

実際に、前回のお話をちょっと聞いていたら、対話集会以外でも意見は何ぼでもとれた、でも対話集会は反対やと言うてた人が賛成の意見を聞く中で少し態度が変ってきたというような合意形成の意味合いは確かにあったというようなことをおっしゃっていたと思うんですね。そうしますと、意見は集まるのだけれども、その中でもどうしても聞けない意見、例えばサイレントマジョリティーについて、どういうふうにしたら意見がとれるかどうか、もう少しほっといても来る意見があるので、この3つぐらい聞いておけばかなり集まるかも知れないけど、どうしても聞きたいというか、そういう層の部分があるとすれば、その部分について言及する必要があるかもしれない。

それと、もう1つは、それだけたくさん集まったものを、我々もそうだったんですけど、どうやって反映したのか。我々の意見書の中にも随分実は傍聴者発言や傍聴者の意見をくみ取って、実はそれを参考にさせてもらったというようなことで議論をしたり、一部そういうふうな記述が盛り込まれたりという、逆に言えば我々も聴取を反映させたという過程やいきさつがあったと思うんです。そういう一番問題なところは、やっぱり反映の方法、またそれをどういうふうに住民が納得してくださるのかというところが、まだ未解明のところが多いんです。

今回のこの反映について言えば、聴取のところではどこが不足していたのかというところに言及する必要があるだろうし、大きくは反映というところには少し危険かなというような気がしています。以上です。

○澤井WGサブリーダー

はい、児玉さん。

○河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

前回か前々回で私がちょっと申し上げたことで、正確に伝わっていないといけないのもう一度申し上げますけれども、意見はたやすく出ているという認識はなくて、住民対話集会という場がありますけれども、それ以外の場もあります。住民対話集会の場でしか得られないような意見は、そんなにたくさんはなかったというふうに申し上げたのであって、もともと我々がやった全体の方法

は、それで十分だったかどうかというのがそもそもわかっておりませんので、多分そうではないと思っていますんですが、そういう意味で意見は幾らでも集まってくるというような認識ではありません。対話集会という手法が特に新たな意見を得られる方法かということ、必ずしもそうではないということをお願いしたつもりです。

○澤井WGサブリーダー

ほかに、ご意見はありますか。

今の対話集会のことで、ちょっと私の感想を述べさせてもらいますと、私は余野川ダムに関する対話討論会のファシリテーターということで述べさせていただいたんですけども、確かにその集会で出てきた意見というのは、新しい意見だったということは余りないと思うんですね。既にいろんなところで言われた意見が、またその場でも繰り返されたということであって、それまでのものとの大きな違いは、同じ場で意見を聞かせてもらったということだったと思うんですね。討論が入ったということが大きな特徴だと思います。

それから、もう1つ、これは反省点になるのかもしれませんが、改善面として出てくるような話だと思いますけれども、原則的に住民同士で対話をさせていただくという場の設定だったわけですね。提案者が流域委員会でありながら、流域委員が聞き役になっていたということ。それから、管理者の方も場の設定をされていながら資料提供はするけれども意見を述べられなかったということですね。その辺が住民対話討論会のあり方として、我々がもう一回よく見直すべき点だろうと思っています。

ただ、住民同士いろんな意見を持った人が同じ場に集まって、住民同士で議論されたというのは非常に大きな成果であったような気はしているんです。それがほかの意見聴取の方法とちょっと違ったところかなと思っています。

それから、私は今ぜひ議論をしておきたいのが、いろんな方法を委員会も提案したし管理者もやってこられたんですが、議論が多分あったんだろうと思いますが、実現をしていないのがアンケートの手法だと思うんですね。いわゆる無作為の抽出による意見の聴取の方法というのが実行されていないということですね。それは、私も第1期の委員でないので、それが議論された上で棄却されているのか、あるいはもともと選択肢として考えられなかったのか、その辺はぜひ知りたいなと思っています。委員会の場ではないところでは、時々そのことを第1期の委員の方と議論をしたことがありますけれども、自発的に出てこられる方を中心に考えるという域に今のところどまっていると思うんですね。そうではなくて、言いにくい人の意見をどう聴取するかというところをぜひ議論をしていただきたいなと思うんです。

高田委員、どうぞ。

○高田委員

議論がどの辺に中心があるのかようわからんのですが、余野川ダムの例を澤井さんが今言われたんですが、例えばあれは計画段階の議論で、今のところ何かねじれた後の議論、いろんな段階での議論があるんですね。どの段階でも、先ほど金盛さんが出された中で非常に重要なことは、合意形成をする場合にはその過程で対話というか、やりとりが必ずあるということです。そのときに情報の公表、説明というのが必ず要るわけだし、それを専門的に解釈する人が必要であろうと。それがちゃんとできているかということですね。だから、住民同士で賛成、反対に分かれて対話をする以前に、事業者が正確な情報を平等に両方に与えているかどうか。

特に、例えば長野県のダムなんていうのは、むちゃくちゃな情報のもとにつくるというようなことがひっくり返っているわけですね。そういうことがあるし、勘ぐればこれもやはり金盛さんの書かれている課題の認識で、本来介入すべきでない利害が介入すると、この辺はさっきの議会制民主主義の例がありましたが、これはもう神戸市と大阪市の議員が逮捕されているということがあるわけですね。一般論でそういうことを言い出すと、もう発散してしまって切りがないんですけど、少なくとも、ここの目次（案）の中で事業者の責務というかな、要するに正確な情報をいっぱい出してくれと、これ以上はもうわかりませんというのも情報の一つだと思うんですけど、そういう項目がやっぱり要るんじゃないですか。だから、こういう対話集会にしる何にしる、とにかくその事業に深く関心を持つ人は必ず質問から出発するわけですね。それがきっちり飽和点までいって、もう後はメリット、デメリットを総合的に判断して、エリアで個々の人が決めるという状況まで情報なり議論なりが飽和するところまでいくかですね。そんなんは、ここでどう扱ったらいいかというのはちょっとわからないですね。

○本多委員

対話集会は確かにいきなり対話から始まっているような集会になりましたけれども、河川管理者はその前に実はすごい説明会と質疑応答の会議を何遍も何遍もやっておられると思うんですね。ですから、説明会には来たけれども対話集会には行ってないとか、説明会に行かずに対話集会だけ出たという人にとっては、確かに情報がないとか、もしくは誤った情報のまま議論したということがあったと私は思うんです。では、河川管理者が情報提供をしなかったのかというのではなくて、かなり何度も何度も説明会や質疑応答をやられていましたし、司会者も最初は国土交通省の人がやってはって険悪なムードやったんですけども、そのうちコンサルの女性の方が司会に入るようになったら随分雰囲気が変わったというのもありましたけれども、かなり一生懸命提案されたと思うん

です。それと住民対話集会はうまく連動してなかったという問題はあるかなというふうに私は思っているんです。その説明されたものを理解された上で対話集会上に臨んでいただいていたら少し、高田先生がおっしゃっている問題なんかは随分改善したのかなと思いますけど、別々なものという感じになってしまったなというのが私の感想としてあります。

○高田委員

私も流域委員会に入ってから河川管理者と話をするのはほとんど質問です。ですから、パワーポイントできれいな絵が次々出てくると、果たしてあれは1個ずつに本当にこれはどうなんですか、私も猪名川のケースなんかがあったら実際に川を見ているから、これは現場とちょっと違うでしょうとか、いっぱいありますね。それを残したままダム賛成、反対なんてできない。

そういう意味で、ここに金盛さんの書いている2番の形成過程に求められるもの、これは非常に大事なんですけど、これがどれだけ生かされるか、それも物すごい大きなファクターです。ですから、河川事業の場合メリット、デメリットというのは裏表の関係で出てくると思うんですね。そういうものに対して、そこまで説明してくれてありがたいと言えるところまでなかなかいかない。それ自体が問題やと思います。

○三田村委員

議事進行のような発言になりますが、そういうことも含めて前回のワーキング検討会では、総括といいますが評価を河川管理者からだけ求めるのではなくて、ファシリテーターの人から見た対話集会の評価というものをやっぱりやっていただいたらいいのではないですか。あるいは、そのとき参加した第1期の委員、委員はファシリテーターになれませんでしたから、そういう方からの意見をいただければというご意見もありました。あるいは、これはちょっと難しいかもしれませんが、ずっとつき合ってきた庶務から見た点を可能であればという程度かもしれませんが、いただければいいのかなと思います。

そういうのをまとめていただいたら対話集会のよりよいものがさらにできるのではないかなと思います。あるいは、そのテーマになじむとかなじまないものとか幾つか見えてくるような気がします。おっしゃっているように、対話集会在すべてだと私たちは思ってなかったんだけど、対話集会だけしか提案できなかったということです。まず、それを総括していただくと。その上で河川管理者がほかの方法でおやりになったことに関して、私たちがそれをよりよい方法に、あるいはこういうテーマはこれよりこっちの方がいいのではないかという形で淡々とまとめられたらワーキングではいいと思いますけれども。

今のご意見等は、まとめていただいて原案をつくっていただくと案外議論をしやすくなる、すぐ

に解決できるのではないかと思います。

○荻野委員

まとめ方の経験なんですけど、私は利水・水需要管理部会をやらせていただいて、そのときに早い段階でどういうことをやりたいのか、どういうことが問題になるのかを目次の形、あるいはカテゴリーを整理して1枚の表にしてこいと言われて、一生懸命我々は考えて、実は千代延さんとブレインストーミングを何回もやりまして、目次の形でカテゴリー整理をして、キーワードやキーセンテンスを整理したものを早い段階で検討会や勉強会で見てもらっています。

そうして、そのカテゴリーの中から重要なものから順番に検討会に提案いたしまして、河川管理者から説明をもらって検討し、具体的に整理をしてもって少しずつ形ができ上がってきたんですね。何かそういうものがない限り、気がついたことをディスカッションという形でしゃべっていても、頭数だけ意見があって、対立して意見が混乱してぐちゃぐちゃになってしまうんですね。

利水部会では4回検討会を開き、その合間に4回の意見交換会をやって、それと同時に次は何をしようというのを千代延さんと2人で何回もブレインストーミングをやり、提案、提案という形でやっています、それでもやっぱり5カ月ぐらいの時間がかかりましたね。これは我々の部会の経験ですので、参考にさせていただければ。

○澤井WGサブリーダー

はい、金盛さん。

○金盛委員

金盛です。今の先生の進め方とか枠組みをするというふうな話に関連してですけど、これは河川管理者さんの方もそうだと思うんですけど、私は一般論を求めておられることではないと思うんですね。一般論なんていうのは、それこそ何ぼでもあって終着駅がないというような感じがします。

ですから、淀川整備計画そのものであるかもしれませんが、もっと具体には、例えば意見が割れそうな、あるいは社会的に大きな問題になるであろう開削部の改修のあり方、進め方。あるいは、先ほども申しましたけど淀川の河川公園は利用者と環境サイドの方で相当意見が分かれるはずであります。こういった問題を具体的に挙げて、具体的に俎上に置いて意見の反映の仕方はどうあるかというふうなことを議論して、場合によったらそれらを包括するような形で進められる方が早いのではないかと思いますね。

○澤井WGサブリーダー

はい、寺川さん。

○寺川委員

前回のワーキングで錦沢先生の講演があったんですけど、そこでこれはやっていく必要があるのではないかなと思っておりましてのが幾つかあったんです。その中で、1つは参加者分析をやって少人数からですね、これは屋久島での事例から講演をしていただいたんですが。振り返りますとこれは住民意見の反映とは言えないのかもしれませんが、例えば委員会でもずっと傍聴者発言を認めてきたと。それを今回改善するという手続をとっているんですけども、いつも発言をされる方は特定してしまって、同じことではないんですけどもよく似たご意見をお出しになるということがあったわけですね。

それがこの討論集会等を見ていまして、やはりよく発言される方と、来ておられてもほとんど発言をなさらない方もいらっしゃる。それから、かなり動員されて来ておられるというようなことがあったと思うんですね。そうしますと、そこで出てくる意見というのは、やはり声大きいとか参加者が多い、発言される方というのが住民の意見であるのかというあたりは、やはり我々が改善していかないといけない。これは我々自身、委員会もそうですけど、当然河川管理者の方もこの住民意見を反映していくという場合、非常に重要なことですので、そこでは前回お話のあったような屋久島の事例なんかも、我々ももう少し研究して河川管理者に対して提案すべきということも非常に大事なかなというふうには思っておりますが。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見はありませんか。

○田中WGリーダー

先ほど部長さんがおっしゃった、いわゆる対話集会から委員の報告というのは前回も多分お話しされたことなので、これは対話集会に関する委員の報告ということで、複数の方をお願いするという方向性があったと思うんですが、そういう形でよろしいでしょうか。

○三田村委員

先ほどの宿題も、これが宿題だとおっしゃらなかったから金盛委員だけが出されたのだろうと私は自分で納得させているんですけど、皆さんが宿題だと思って出されなかったとしたら全体の大きな責任ですね。それと同じように、参加された人にしゃべってくださいといいますか、何か出してくれというのは多分時間的に非常に難しいと思いますね。たたき台を出す中でそれをつくり上げていかれたらどうですか。いろんな意見を組み入れられてというのが早いと思います。多分、行かれた人はいろんな意見を持っていらっしゃると思います。先ほどの副リーダーの意見もそうだと思います。具体的なことになると、こういうことをやられるともっといい対話集会ができたのではない

かとかあると思いますから、よりよい対話集会というのはこうだよというときに、こういう主張も入れたらどうかというので意見を修正して行って、早く完了させていくというやり方がいいかもしれません。

○田中WGリーダー

済みません、私の説明が悪かったです。つまり、対話集会に出席された方、経験をいろいろされた方に報告をしていただくということがいいのではないかとこのように受け取っていたんですが、そうではないんですか。

○三田村委員

前はそうだったんですけどね、そういう形ではなくてもいいと思います。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見はありませんか。 高田委員。

○高田委員

具体的に、例えば河川敷の利用なんかは、もう既に対話集会も何回かやられていますね。それで保全利用委員会もできています。それに対して近畿地方整備局の方は、この委員会の方向も含めて川の特徴を出すような利用方法が出ていますね。だから、運動場は減らせという方向です。そういうことで既に保全利用委員会は公開制でもう3年近く、始まっているわけですね。それとか淀川環境委員会の場合は公開制で結構たくさんの傍聴者が来て発言されたと。そういうものの位置づけと今後のあり方というのもここへ盛られる必要があるのではないかなと思うんですけど。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見はありますか。

○三田村委員

ちょっと補足させていただいてよろしいですか。

先ほどのファシリテーターの人から見た対話集会の評価だとか参加した第1期の委員からとかありましたけれども、第2期に残っていらっしゃる人というのは、その中の何割かですので、ほぼ完成した素案を見ていただいてコメントをいただいた方が早いと思います。こんな新たなものをつくりましたが、そのときにかかわった委員の方、あるいは庶務もできればですね、本当にこんなでよろしいのかという感じでやっていただいたらよりよいものができると思いますけど。そうでないと現委員の方から聞くというのは簡単かもしれませんが、そうでない方たちからというのは時間的に非常に困難だと思います。

○今本委員長

ずっと先ほどから聞いていまして、何かご意見ありますかといって、ばらばらと聞いていますけれども、今までの意見をまとめられるんでしょうね。

○澤井WGサブリーダー

それはまとめないといけないですね。

○今本委員長

そうなんでしょうね、そのためですね。

私は、きょうは大事な仕事は目次を決めることだと思うんですよ。1つ言えるのは、リーダーとサブリーダーの間に会話がないのではないですか。対話集会をやるんだったら、もっときちんと対話をして、この2つのでもばらばらに出すのではなく、それこそもっと2人できちっと詰めて、きょうはこの部分をどういうものを書いたらいいのか、そういう形でやらないと時間が足りないのではないですかね。ちょっと、私は休憩時間にそういうことを調整されているのかと思ったら、されてないみたいです。今のこのようなやり方ですと、反映しますと口で言うけど、したのかどうかわからなくなりますよ。もっと緻密に、まず全体的な大きな流れ、それは場合によって今後とも変わっていくこともあるでしょうけども、目次をまとめるということをされてないようですけど、きょうはされるつもりはないんですか。

○三田村委員

もめている間にコメントさせていただきます。多分、それはできているんだろうと思います。大丈夫だと私は思っていますけれども、若干のところではやっぱりあるかもしれません。

真澄さん、ですよ。

○田中WGリーダー

この辺が基本になるのかなあと思っているだけで、まだまだ意見を聴かなければと思っています。

○三田村委員

もうほとんど頭の中で全部できているんですよ。

○今本委員長

もしそれでしたら、私はこれにかなり異論があります。といいますのは、この目次の中で、例えば「はじめに」のIのタイトルがないんですよ、これは打ち忘れたんだろうと思いますけれども、この中身の中に流れがないんですよ。意見の中に一つの流れですね。ですから、ばらばらと何か取り上げてきているという感じだなという気がしています。ですから、まとめ方をもうひとひねりしてほしいなという気がしますけどね。

○澤井WGサブリーダー

恐れ入りますが、ちょっと数分休憩をいただけませんか。2人でちょっと打ち合わせをしたいと思いますので。4時5分から再開をしたいと思いますのでお願いいたします。

[午後 3時58分 休憩]

[午後 4時 6分 再開]

○庶務（日本能率協会総研 近藤）

それでは、会議を再開させていただきます。よろしくお願いいたします。

○澤井WGサブリーダー

どうもお待たせしました。

リーダーとサブリーダーの調整というのは余り十分な議論ができませんでしたけれども、きょうの議事全体としての今後の進め方というところに進めていきたいと思います。そして、今後の進め方の中には目次（案）についての検討ということ大きなテーマとして後の時間を使いたいと思いますのでご了承ください。

先ほど2つの目次（案）を示させていただいたんですが、基本的には田中リーダーの方の目次（案）をもとに議論を進めていきたいと思います。ただ、先ほど今本委員からもご指摘がありましたように、ちょっと形式的に整っていないというのがありましたので、それにつきましては2人で打ち合わせを行いましたので、それを最初にちょっとご報告したいと思います。

まず、「はじめに」はそのままです。Iとあって、そこに見出しが載っていないんですが、これは「住民意見の聴取反映のためにとられた従来の方法」というような枠組みです。その中に1番から4番までがあるということで、これは当然Iの1、Iの2、Iの3、Iの4というふうに理解していただければいいと思います。

それから、大きな2番目というところが「II 新たな意見聴取の方法と提案」でこれは先ほどと同じで反映というのを加えたいと思います、「II 新たな意見聴取反映の方法と提案」。そして、最後に「III 社会的合意の考え方」、それで「まとめ」がある、そんな流れです。この目次（案）について、これではちょっとまずいとか、ご意見をいただきたいと思います。

○田中WGリーダー

田中です。先ほど今本先生がおっしゃったように基本的概念と次の間の連続性がないということで、どういう目次の順序を構成すれば良いか考えたいと思います。

きょう、とにかくこれを、さまざまな意見をいただいて、それを集約した形できちっとした目次案を決めて、それを決めるときには、また私やサブリーダー、知識経験の豊富な委員の方に2名ほ

ど加わっていただいて早急につくり上げたいと思いますので、きょうはその目次案について、ここが悪い、あるいはこういうものを入れた方がいいとか、いろんな意見があると思いますので、よろしくをお願いします。

○寺川委員

先ほどのIですね、最初、「はじめに」の次。この大きな見出しをもう一度言ってもらえますか。

○澤井WGサブリーダー

「住民意見の聴取反映のためにとられた従来の方法」。大きなIというのが、これまでのことになるんですね。大きい2番がこれからの問題になります。

○三田村委員

これは河川管理者がですか。

○澤井WGサブリーダー

委員会が提案したということを含んでのつもりでいますけれども、委員会がこういうふうなことをこれまで議論して提案をしてきたと。それに基づく、基づくというのは変かもしれない、それを参考にして、管理者の方がやられたいろんな方法があったということ。

○三田村委員

含めてですね。

○澤井WGサブリーダー

はい。

○荻野委員

目次というのは大事です。審議のガイドラインみたいになって、その筋でやっていくわけですので、ぜひきちっとしたものをつくっていただきたいと思います。

それで、平成14年12月のこの意見書2とか、それから平成15年5月のこの別冊提言がありますね。こういうものが2つあって、それに基づいて具体的に事業が実施されたわけですね。それぞれに、反省やあるいは感想といったものが、河川管理者側から、委員会から出てきてましたけれども、それをぜひ、どなたかが一回まとめられて、整理してみんなに提出されたらいいのではないかなと思います。

釈迦に説法になるんですが、我々の利水部会でやったのは、これまでやった関係の部会とか検討会、過去のものを全部整理して、提案された資料の一覧表をつくって、それから出てきた意見を全部集約し、それをカテゴリーに分類して、短文にして30ページぐらいのものにまとめて、皆さんにお示しをして、そこから議論を始めました。

やっていくうちに、わからんことがいっぱい出てきましたので、河川管理者から説明をしていただいて、補足資料もたくさんいただきました。このプロセスが大事です。そのプロセスのスタートラインに立つのがこの目次ですので、その目次がきちりとどなたか二、三人集まって、ブ레인ストーミングをして、まとまっていなくてもいいので、だけど項目をなるべく落とさないようにしてつくっていただければいいかなと思います。

○澤井WGサブリーダー

その作業をリーダーとサブリーダーでということになるのでしょうかね。

○荻野委員

どなたでもやってやろうという方がいいのでしょうか。ちょっと時間がかかるので、覚悟してやってもらわんと。やっぱり時間をかければいいものができてくるようです。資料としては膨大なものがありますね。それを整理をしてもってやっていかないと、自分の頭の中にある印象だけで目次はつくれないのではないかな。それをやっていくと、今までどんな意見が出たかというのが片方で整理されていきますね。そして、整理がされていくと同時に目次も大体ははっきりとしたものが整理されて出てくる。この2つがセットになって、このバックグラウンドはここにありますよというようなことが出てきてわかりやすくなると。ちょっと手間暇がかかります。

○澤井WGサブリーダー

私は、この作業をいずれ早期に始めないといけないというのはわかっていて、それをやる上で、何人かに、リーダー、サブリーダー以外に入ってもらってありがたいなと思っているのですが、ちょっとお名前を挙げさせてもらってよろしいでしょうかね。3人入ってもらったら私は考えてきょう来たのですが、寺川委員と川上委員と本多委員と一緒に加わっていただけると、その辺の立案が非常にしやすいかなと思っているのですけれども。

その3人を選ばせてもらった理由というのは、1つは過去の経緯をよく御存じだろうということです。第1期から委員をやっておられる方で、地域がなるべく分散するようにということで、もしお願いできたらと思っているのですけれども。そして、次回の9月13日までに間に合うように、たたき台をつくっていくということができればと思いますけれども。

○三田村委員

恥ずかしいのですが、私も入れていただきたい。時間がほとんどとれないのですが、9月は。ですけれども、あいている時間は加わりたいと思いますのでお願いします。

○田中WGリーダー

ご多忙の中、恐れ入りますけどよろしくをお願いします。

○澤井WGサブリーダー

きょうは目次の確定というところに至りませんが、ご容赦いただけますでしょうか。

[今後の進め方]

○澤井WGサブリーダー

それでは、今後の進め方ということで、次の検討会は日が決まっておりますので、そのときにそろえていただく資料として1つは、管理者の方から先ほどお話があったものを提供していただくということ。それから、今申しました私どもの方で目次案についてももう少し詳しい内容のものを整えておくということですね、その上でまたご議論いただくことにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[その他]

○澤井WGサブリーダー

では、その他の、何か今議論しておくことで。

○千代延委員

この目次で説明はわかりましたけれども、この3の社会的合意の考え方というのは、1つ章を立てられるのですか。お考えは。

○澤井WGサブリーダー

きょう持ってきたのはそのつもりでいましたけれども。

○田中WGリーダー

立て方としては、この意見の中に当初は入れておくべきだというふうに私は思っているのですが、皆さんはさまざまなご意見があると思うのですが、全く別の方法でこれは考えた方がいいのだという意見もあったと思うのですが、それは合意形成をしていこうと思います。いかがでしょうか。

○本多委員

本多です。私の意見ですけれども、この社会的合意の考え方というよりも、最初に本書の目的は何かということを明確にされて、その中で住民の意見の聴取と社会的合意の関係性について、先ほど寺田委員がおっしゃったようなことをまとめて、その上で、我々はそういう社会合意の形成を目指せるように、これは副産物のようなお話だったと思うのですけれども、住民意見聴取の反映方法について明確にこれで明らかにするんだということを最初に出しておいて、そこで部分で論じてもいいのではないかというふうな気がするのですけれども、どうでしょうか。

○澤井WGサブリーダー

田中さん、どうですか。

○田中WGリーダー

いずれにしろこの中で記述するということですね。

○本多委員

独立した章を設けるのではなくて、まえがきの部分で。

○澤井WGサブリーダー

ほかにご意見はありませんでしょうか。

今の本多委員のご意見は、私はそのように変更したいと思います。

ほかにありますでしょうか。はい。

○今本委員長

目次をやるだけではなく、できたら中身がわかる程度にキーワードを並べるぐらいのところまで
願えますかね。これは、今このワーキングの力量が問われているのだということをよく自覚
して全力を投じていただきたい。お願いします。

○澤井WGサブリーダー

承知いたしました。

それでは、ほかにご意見がないようでしたら、ちょっと時間が早いですが、これで終わりにした
と思います。

はい。

○寺田委員

ちょっとまだ時間があるようなので、2つばかり。

1つは、これから作業をやっていただくことになりますけれども、これまで中身の議論を余りや
ってないと思うのです。議論をする必要はないですけれども、このワーキングのメンバーの方だけ
でも、実際どういうふうなところが修正点として自分が感じたのか、もしくは発展させるとすれば、
どういうところがこの前の提言を発展させることができる部分があったのか、この辺の意見だけで
もお出しになったらどうですかね。でないと、目次ばかりつくってみても、これは中身ですから。
もうちょっとみんなのいろいろ感じているところがあると思うのですよ。

対話集会に僕は1回だけ木津川上流の方へ行きましたけれども。余り行ってないとしても、資料
等もいろいろあって、皆さんもごらんになっていると思うので、これはちょっと変えられるぞとか、
これは変えないといかんと違うとか、これは我々は言ったけどもちょっと違うなというふうな
こととか、感じているところが幾つか僕はあると思うのですよ。それをぜひこの時間を利用して出
してみたら良いと思います。

これは今後、目次もしくはキーワードをつくる上で参考になるのではないかと思います。余り担当者に何もかも任せきりでは申しわけないので、ちょっとそれをあと5分や10分でもいいから、みんな一人一人お出しになったらどうかなというふうに思うのが1つと。その点を僕もちょっと言いますので。

それから、もう一つは、今後のスケジュールの関係で、このワーキングとしての一応の終了時期をどの辺に目標を置くのかだけは決めておいた方がいいのではないかと思います。これは、住民参加部会の方の関係で、ちょうど部会長さんもおられるわけで、そういう関係で、いつごろをこのワーキングの到達時期にするかということ、その辺だけは目安をつくっておかれた方が、これは形式的なことなので後の方でいいと思いますが。

先ほど私が申し上げた改良点といいますか、何かそういうところで私なりの意見を申し上げたいと思います。この提言別冊とか、それから意見書等を見ますと、さっきも千代延さんが言われたんですけど、よく書いてあるんです。非常によく書いてあるので、これをどれぐらい発展させられるか何かいい方法を考えたら、見たら書いてあるわというようなことで、これはいかんなどっているのですけれども。

ただ、実際に管理者の方がいろいろ実践されているわけですが、そっくりそのままの実践ではないです。だから、ここを注意しなくてははいけないし、そこに勉強点が多分あるのだろうと思うんですね。特に、反映という部分については、かなりページを割いて具体的に確かに言っています。ただ、そのかなりの部分は、もし意見対立があれば、この委員会に問題提起してくださいというようなことまで入っていますけれども、この辺は管理者の方で多分いろいろご苦労か、もしくはやりにくいところがあったのかと思いますが、必ずしも前のときに提言した形での反映というふうなことは、テーマとの関係でもそういうことがなかったかもしれないけれども、そういう部分、場面がなかった。この辺が少し修正点というか、検討をしなくてははいけない部分かなというふうに感じました。

それから、いろいろ説明会をかなり丁寧にやっておられた上でのこの対話集会を今もやっておられるんですね。そういう点では、この前も申し上げましたけれども、さまざまなこの参加の手法というものを、例えば説明会、公聴会、それから対話集会、対話討論会、意見書提出、いろいろ手法がありますけれども、そういうものをテーマごとに、テーマを選定した上で使い分けをしなくてははいけない。その辺のところについては、必ずしもこの委員会の提言では余り見られてない意見ですね。その辺はある程度ヒントになることはやはりこの委員会では言わないといけないことだという気がしました。

それから、私はこの住民参加の手続を実質的に行うためには、住民が検討をする、情報公開をしても、単に資料提示を受けてもなかなか難解で、中身が理解できないという部分が多々ありますよね。そういうときに、もちろん管理者に聞いていろいろヒントを得るといいものなのですが、これは一定クッションを置いて、やはり補助する専門家関与といいますか、そういうものを制度化しないと、なかなか住民参加が実質的には発展しない。その辺のところは、前のときの意見には全くふれてない。こういうことが必要ではないかなというようなことで、それがどういう仕組みでどういうふうにやれるかというのは、ちょっと検討しないといかんのですが、そういうことをちょっと感じていました。

だから、多くのところでは、管理者の方の説明内容の難解なところに対する質問と回答というようなことで随分と時間がとられてしまうという部分がありますね。こういうものはもっと通常のそういういろんな対話集会とか説明会とかということとは別個に消化されていれば、随分と時間短縮もできるし、むだなことをやらなくてもいい、そういう意味では、今申し上げたようなそういうふうな専門家関与といいますか、住民がアドバイス、ヒントを得られるようなそういう仕組みというものを何か必要かなというふうなことで。この辺がちょっと全くふれてなかったの、足さないといかんのかなというふうなことを考えました。できたら、ほかの委員の方もどういうふうに感じられたかということをおっしゃっていただければいいのではないかなと思います。

○澤井WGサブリーダー

ありがとうございます。時間が残っていると言っていたのが、あつと言う間に過ぎてしまいました。予定時間を少しオーバーしていますけれども、もし今寺田委員からお話があったような、個別の話で結構ですので、ぜひお聞かせいただくご意見があったらお願いしたいと。なければ、本日は終わりにしたいと思います。

○三田村委員

私もちょっとだけしゃべらせてください。

対話集会に、もぐりで3回ぐらい行ったように記憶しているんです。委員だという顔をしないようにした方がいいと思ひまして。感じた大きなことは、予習不足だと思ひました。それは、河川管理者の予習不足も若干あったのかもしれないですけど、どういうことが起こり得るだろうかと想像する予測ができてなかったのかもしれないですけど、ファシリテーターの予習不足もあり、参加者の予習不足も随分あったように思ひます。

そのためには、河川管理者から、先ほど来少し意見が出ていましたけど、いわゆる情報を、このテーマに対する情報を徹底的に公開して、それが周知されているのだという確認ができてなかった

のではないかなと思います。情報を公開するだけでは、本当に参加した人が理解して参加しているのかどうかというのはわからないですから。理解して参加していたらその意見は重いでしょし、理解せずに参加したら意見は軽いでしょし、そういうところは多分できてなかったのかなと思います。

○千代延委員

千代延です。私は、委員ではありませんで一般からの発言で邪魔をした方ですけど。内容を正しく理解して、100%理解しておる人は非常に少ないですね。勉強不足という、これは事実そうなんです。ただ、完全理解を参加者全員に求めるというのは、現実には難しいですからね。約束事として、私の、この間からちょっと思い出しておるのですけれども、ファシリテーターの方に全部お任せしていると、事実誤認という言葉で言われましたけど、たしかにその事実誤認でもって繰り返し議論がされることもあるんですよ。そのときにファシリテーターの方も気がつかれたのか、つかれないのかわかりませんが、そういうときは、ルールとしては、やっぱり河川管理者は、意見を抑えるという意味ではなくて、事実誤認というところだけはできるだけ早いうちに修正をするというようなルールがあってよかったと思うのです。理想を言えば、みんな勉強をして予習しておくべきですけども、とてもあれだけのものを全部100%理解してというのは、それはどだい望む方が難しいと私は思います。以上です。

○寺川委員

今の千代延さんのことは私も感じているところで、今後に改善していただきたいと思います。

それと、前回の宿題ができてなくて申しわけなかったのですが、金盛さんと川上さんは出ているのですが。次回の宿題はないのですね。いや、さっき寺田さんがおっしゃっていたあたりは宿題かなと思って聞いておったのですが。

○澤井WGサブリーダー

今ここですぐ皆お伺いしていると、むちゃくちゃ時間がオーバーしますから、それを宿題にさせてもらいたいと思いますけれども。

○三田村委員

今の件も含めて、文書でメールで提出してもらったら、目次をつくるのに参考になるかもしれませんね。

○澤井WGサブリーダー

そうしたら、いつまでというようなことをまた後ほど私の方からメールでお送りさせていただきます。その節にはぜひご協力をお願いしたいと思います。

川上委員。

○川上委員

私は、結構あちこちの対話集会に参加させていただいて、丹生ダム、天ヶ瀬ダム、淀川河川敷、木津川上流、木津川上流は一番何回も参加しましたがけれども、それぞれ進め方が違うので、一般論として抽象化して評価するというのは難しいかなと僕は今思っていますので、どう書いたらいいのかなと悩んでいるところです。

委員間でいろんな評価があるものの、先ほど金盛さんのご意見にありましたように、きちっと情報を提供し、そして議論の筋道を説明して、あとの報告書まできっちりされたのは木津川上流かなと思っております、改めて木津川上流の記録をもう一回引っくり返してみて、そこからあるべき姿と改善点をまとめてみようかなと今考えているところです。

先ほど千代延さんがおっしゃったのでしょうか、やっぱりテーマが重くなると、対話集会という方式ではなかなか難しい部分があって、そういう意味で、先ほど寺田さんがおっしゃった使い分けとおっしゃいましたが、他の手法を考えて提案できればなというふうに思います。

○澤井WGサブリーダー

ありがとうございます。

それでは、ほかのご意見はまたメールでいただくことにして、きょうの討論会、検討会はこれで終わりにしたいと思います。どうも長時間ありがとうございました。

○庶務（日本能率協会総研 近藤）

それでは第2回意見聴取反映WG検討会をこれで終了させていただきます。

なお、第3回意見聴取反映WG検討会は、9月13日水曜日1時半から4時半まで、みやこめっせで開催を予定しております。また詳細につきましては、庶務よりご案内させていただきます。本日はありがとうございました。お疲れさまでございました。

[午後 4時38分 閉会]

■議事録承認について

第74回運営会議（2006/8/31 開催）にて、議事録確定までの手続きを以下のように進めることが決定されました。

1. 議事録（案）完成後、発言者に発言内容の確認を依頼する（確認期間 10日間）。
2. 確認期限3日前に庶務より期限のお知らせ連絡を行う。
3. その際、確認期限を経過した時点で、発言確認がとれていない委員に確定することをお伝えし、お名前を議事録に明記したうえで、確定とする。